1. 調査地位置図（S=1/2,500）

2. 調査区域位置図（S=1/1,500）

第49図 法貴寺北遺跡 試掘調査地及び調査区域位置図
第50図 調査地平面図・南壁土壁堆積図（平面図：S＝1/150，断面図：S＝1/100）
3. 多遺跡試掘調査（S-200903）

1. 遺跡の概要

奈良盆地の中央、標高51m前後の大規模地に立地する。弥生時代後期より古墳時代までの遺跡として知られる。また、遺跡中央には式内社多摩廃志理都比古神社（多神社）が鎮座する。この多神社は古代氏族多氏の拡張地として、多神社は多氏の権である神八井を祀る。

今回の調査は、農業用水路の建設に先立って遺構分布状況を確認するために実施した。対象となる区間は、多遺跡南鶴茂の東西約100mである。調査第Ⅵ次調査地の東西間接地域、第Ⅸ次調査の北側約100mの位置にあたり、東側隣接地では併行して多新堂遺跡第Ⅳ次調査を実施している。

調査は、工事予定範囲内に5ヶ所の試掘トレンチを設定しておこなった。調査区の規模は東西2m前後、南北0.8m前後で、東側から順に第１トレンチ〜第５トレンチとする。

2. 調査の成果

（1）層序

調査の現状は水田である。トレンチにより層序に相違があるが、ここでは第２トレンチの層序を示す。

第1層：青褐色粘質土、第2層：淡紫色粘質土、第3層：灰褐色粘質土、第4層：暗灰色粘質土、第5層：褐色土（ヤマハード）。

層を凝れ、第2層が中世近世、第4層が中世の遺物を含む層である。

（2）遺構と遺物

第１トレンチ　中世含在下には全体に褐色粘質土が堆積する。軟質な粘土であり、落ち込み状の遺構が存在する可能性がある。遺物をほとんど含まないため、時期は明らかできない。

第２トレンチ　表土より深さ0.6mまでやや堆積した褐色土層を検出した。これは古墳時代以降の遺構面となる可能性を考えられる。ただし、検出した層域では顕著な遺構はみられなかった。

第３トレンチ　表土より深さ0.55mまで暗褐色土（ハード）を検出した。これは地山層ともられる。顕著な遺構はみられなかった。

第４トレンチ　表土より深さ0.5mまで灰色粘土層を検出した。厚さ0.2m以上あり、中世層の落ち込みが堆積する可能性がある。

第５トレンチ　表土より深さ0.6mまで褐色粘質土層が堆積する。若干の遺物を含む。厚さ約0.2m。その下は暗灰色粘質土層で、深さは確認していない。これらの層は古墳時代~古代層の落ち込みあるいは積なる可能性がある。

3. まとめ

今回の調査では、多遺跡東端の遺構分布状況について断片的な情報を得られたのに留まった。第2・第3トレンチで比較的安定した層を検出しているものの、遺構は確認できず、遺物も僅少であった。第1・第4トレンチは中世後の落ち込み状の堆積で、第5トレンチは遺構となる可能性のある
1. 調査地図（S=1/2,500）

第51図 多用途試験調査地及び調査区位置図
第52図 遺構平面図 (S = L/80)

層を確認した。

調査の結果、基本的には遺構が散漫な地域であるとみられる。ただし、西側では遺構となる可能性のある堆積層を確認している。工事の掘削は遺構面まで及ばないとみられるが、慎重に対応する必要がある。
4. 唐古 - 建遺跡 試掘調査（S-200904）

1. 遺跡・既調査の概要

唐古 - 建遺跡は、奈良盆地の中央、標高48m前後の沖積地に立地する。これまで108次を数える調査が実施され、遺跡の範囲および内容について明らかとなりつつある。弥生時代の代表的な集落遺跡であることから、その中心部分について平成11年に国より史跡指定を受けている。

今回、平成21年度より開始された公園整備事業に伴って水路の付け替えが計画された。この水路設計にあたり、遺跡への影響を回避するためのデータ採取を目的とした試掘調査が必要となった。なお、保存を目的とした調査であることから、基本的に遺構面以下の掘削は極力回避し、遺構面の確認にとどめるよう努めた。

2. 調査の成果

（1）第1〜3トレントの成果

調査地の現状は水田である。ただし、史跡指定後の賃用に伴い、現在耕作はおこなわれていない。
第1層：灰褐色粘質土、第Ⅱ層：青灰色粘土、第Ⅲ層：淡灰色土（砂混）、第Ⅳ層：土灰色（砂混）、第Ⅴ層：灰褐色土、第Ⅵ層：灰褐色土（砂混）、第Ⅶ層：黒褐色土。

第1〜3調査区は、ほぼ同様の地形であり、中世末根小淵群の検出面となる第Ⅴ層：弥生時代頃の遺物を含む層は上層が高さ47.7m前後になることが確認できた。主に南北方向に素掘小淵群が拡がる。なお、弥生時代の遺構検出面は標高47.5m付近とみられる。

（2）第4トレントの成果

現状は開墾を伴わない土水路である。西側隣接地での調査成果から、古墳時代までであることがあることが考えられていた。ただし、現水路により遺構が大きく削られているとみられることから、古墳層土の残存する高さを明らかにするために調査をおこなった。
第Ⅰ層：青灰色粘土、第Ⅱ層：淡褐色粘土、第Ⅲ層：黒褐色粘質土（ブロック状）。

調査の結果、近代〜現代の灌漑堆積の第1・2層0.2mの下に、第3層の古墳層丘の盛土が遺存することが明らかとなった。検出標高は47.9mである。

（3）第5・6トレントの成果

調査地の現状は水田である。ただし、史跡指定後の賃用に伴い、現在耕作はおこなわれていない。
第5トレントの東側は一段高い畑地となっており、第76次調査等の成果から古墳層丘が遺存する可能性も考えられた。
第Ⅰ層：暗茶灰色粘質土、第Ⅱ層：青灰色土、第Ⅲ層：茶灰色土（砂混）、第Ⅳ層：灰褐色粘質土、第Ⅴ層：黒褐色土。

第Ⅴ層上層は中世末根小淵群を検出する遺構面となる。南北方向の素掘小淵群を検出した。また、北側は弥生時代〜古墳時代頃の遺構土とみられる。なお、第5トレントでは、第4トレントのような古墳層丘盛土とみられる堆積層はみられなかった。周溝部分に相当する可能性もあるが、今回の調査では確認していない。
第53図  塩古・鍛造跡 試掘調査地及び調査区位置図
第1トレンチ

第2トレンチ

第3トレンチ

第54図　第1～3トレンチ遺構平面図（S＝1/50）
第7トレンチ

第8トレンチ

第9トレンチ

第56図 第7〜9トレンチ遺構平面図（S-1/50）
(4) 第7～9トレンチの成果

調査地の現状は水田である。ただし、史跡指定後の買収に伴い、現在耕作はおこなわれていない。

第Ⅰ層：暗茶灰色粘質土、第Ⅱ層：青褐色土、第Ⅲ層：茶灰色土（砂混）：第Ⅳ層：暗灰褐色土（砂混）、第Ⅴ層：黒褐色土。

第Ⅳ層上部が中世素摂小漁場を検出する遺構面となる。東西及び南北の素摂小漁場を検出したが、涌水が激しいために厳密な遺構の把握はできていない。なお、第7～9トレンチの地表面は第5トレンチ等と比べて約0.3m低い。そのため遺構検出面も深いかことになる。

3. まとめ

今回の調査では、水路工事の設計に伴う遺構面の把握という目的は達することことができた。ただし、遺構の内容等については調査の目的外であるため、今回の調査では把握していない。中世包含層にも多くの遺物が包蔵されていたことから、各調査区には多くの遺構が存在することは明らかであろう。
<table>
<thead>
<tr>
<th>道産名</th>
<th>調査地</th>
<th>調査者</th>
<th>工事の目的</th>
<th>立会人</th>
<th>開会日</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>高たぬき (3-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>植物名 (2-20062)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>その他 (2-20063)</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>古市保弘</td>
<td>2009/6/18</td>
</tr>
</tbody>
</table>
II. 資料の整理と活用・普及
1. 文化財資料の整理・保管

（1）埋蔵文化財の整理・保管

平成21年度の発掘調査・試掘調査等に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ約121箱とナイロン袋他で、遺物数は前年度より約20箱多い。本年度の調査で全体の3/4を占めているのが多遺跡。

平成22年1月から3月にかけて、数値の調査が行われたため、数値の調査は1月から3月にあたり、多量に出土したため、年度内の洗浄が完了せず、次年度に持ち越した。

これとは逆に、前年度から持ち越した葬祭遺跡第4次調査で出土した遺物の洗浄は実施され、残り70箱は次年度に実施することになった。この遺跡以外の遺物の洗浄は終了し、分別収納をおこなった。

【埋蔵文化財保管数】

<table>
<thead>
<tr>
<th>調査番号</th>
<th>遺跡名</th>
<th>調査次数</th>
<th>遺物明細</th>
<th>保管数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>H21-01</td>
<td>宮古北遺跡</td>
<td>第15次調査</td>
<td>土器・須恵器・近世陶磁器・木製品・石器等</td>
<td>4箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-02</td>
<td>十六面・栄寺遺跡</td>
<td>第26次調査</td>
<td>近世陶磁器・瓦等</td>
<td>1箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-03</td>
<td>羽子山遺跡</td>
<td>第36次調査</td>
<td>土器・須恵器・近世陶磁器等</td>
<td>3箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-04</td>
<td>筒倉遺跡</td>
<td>第2次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>1箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-05</td>
<td>筒倉遺跡</td>
<td>第1次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>1箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-06</td>
<td>多田遺跡</td>
<td>第36次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>5箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-07</td>
<td>壱岐・筒倉遺跡</td>
<td>第107次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>1箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-08</td>
<td>壱岐・筒倉遺跡</td>
<td>第108次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>2箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-09</td>
<td>多新庄遺跡</td>
<td>第3次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>2箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-10</td>
<td>寺内町遺跡</td>
<td>第12次調査</td>
<td>土器・瓦等</td>
<td>1箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-11</td>
<td>多新庄遺跡</td>
<td>第4次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>2箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-12</td>
<td>多遺跡</td>
<td>第22次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>92箱</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-13</td>
<td>保津・宮古遺跡</td>
<td>第37次調査</td>
<td>土器・須恵器・瓦等</td>
<td>3箱</td>
</tr>
<tr>
<td>S-209001</td>
<td>法貴寺北遺跡</td>
<td>試掘調査</td>
<td>土器・須恵器</td>
<td>4袋</td>
</tr>
<tr>
<td>S-209002</td>
<td>法貴寺北遺跡</td>
<td>試掘調査</td>
<td>土器・須恵器</td>
<td>1箱</td>
</tr>
<tr>
<td>S-209003</td>
<td>多遺跡</td>
<td>試掘調査</td>
<td>土器・須恵器</td>
<td>1箱</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※遺物数の表記の箱とは、長さ56cm・幅36cm・高さ15cmの容量を標準として換算している。また、袋(小)は、ナイロン袋の中の小の大きさを表している。
また、木簡の保存処理事業では、平成19年度に実施した十六地墓・桑名寺遺跡第24次調査で出土し
た木簡の着を平成21・22年の2ヶ年継続でおこなっている。これ等、この調査で出土した施設1
点、第21次調査で出土した中世の円形曲物（井戸状形片）4点も高級アルコール法による処埋
方法で委託した。直営でも桑名寺遺跡第4次調査で出土した中世の井戸に転用された繋の板柵をラク
チートルによる処理方法でおこなった。

【保管薬物種と緊度】

<table>
<thead>
<tr>
<th>帳期番号</th>
<th>遺跡名</th>
<th>調査回数</th>
<th>砂製品</th>
<th>砲製品</th>
<th>砂製品</th>
<th>金属製品</th>
<th>銀貨</th>
<th>木</th>
<th>石</th>
<th>骨</th>
<th>骨敷</th>
<th>種子</th>
<th>木化木</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>H21-01</td>
<td>宮古北遺跡</td>
<td>第15回調査</td>
<td>8</td>
<td>25</td>
<td>15</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>〇</td>
<td>1</td>
<td>〇</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-02</td>
<td>十六地墓・桑名寺遺跡</td>
<td>第26回調査</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-03</td>
<td>羽子田遺跡</td>
<td>第35回調査</td>
<td>2</td>
<td>4</td>
<td>10</td>
<td>-</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
<td>1</td>
<td>〇</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-04</td>
<td>箔退退遺跡</td>
<td>第2回調査</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-05</td>
<td>平田遺跡</td>
<td>第1回調査</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-06</td>
<td>羽子田遺跡</td>
<td>第36回調査</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td>1</td>
<td>〇</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-11</td>
<td>唐古・鍛造遺跡</td>
<td>第107回調査</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td>1</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-08</td>
<td>唐古・鍛造遺跡</td>
<td>第108回調査</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>H21-09</td>
<td>多古京遺跡</td>
<td>第3回調査</td>
<td>-</td>
<td>9</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td>2</td>
<td>7</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-10</td>
<td>市南町遺跡</td>
<td>第12回調査</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-11</td>
<td>多古京遺跡</td>
<td>第4回調査</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
<td>6</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td>4</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-12</td>
<td>多古京遺跡</td>
<td>第22回調査</td>
<td>7</td>
<td>〇</td>
<td>1</td>
<td>98</td>
<td>-</td>
<td>3</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-13</td>
<td>声津・宮古遺跡</td>
<td>第37回調査</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
<td>8</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200901</td>
<td>濃尾風遺跡</td>
<td>試験調査</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200902</td>
<td>池里寺遺跡</td>
<td>試験調査</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200903</td>
<td>多古京遺跡</td>
<td>試験調査</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200904</td>
<td>唐古・鍛造遺跡</td>
<td>試験調査</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td>36</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

※少量類は、複数数数あるいは複数遺跡をまとめて分別収納しているため、コンテナ量で表すことがで
きないので、有（〇）無（-）で示した。また、数は点数であるが、前列の数字はコンテナ量である。
<table>
<thead>
<tr>
<th>調査番号</th>
<th>遺跡名</th>
<th>調査次数</th>
<th>35mm</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>H21-01</td>
<td>宮古北遺跡</td>
<td>第15次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-02</td>
<td>十六面・恵積寺遺跡</td>
<td>第26次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-03</td>
<td>羽子川遺跡</td>
<td>第35次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-04</td>
<td>前進遠遺跡</td>
<td>第2次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-05</td>
<td>平山遺跡</td>
<td>第1次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-06</td>
<td>羽子田遺跡</td>
<td>第36次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-07</td>
<td>唐古・鎧遺跡</td>
<td>第107次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-08</td>
<td>唐古・鎧遺跡</td>
<td>第108次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-09</td>
<td>多田室遺跡</td>
<td>第3次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-10</td>
<td>寺内町遺跡</td>
<td>第12次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-11</td>
<td>多田室遺跡</td>
<td>第4次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-12</td>
<td>多田町</td>
<td>第22次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H21-13</td>
<td>保津・宮古遺跡</td>
<td>第37次調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200901</td>
<td>清水風遺跡</td>
<td>試掘調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200902</td>
<td>法貴寺北遺跡</td>
<td>試掘調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200903</td>
<td>多田遺跡</td>
<td>試掘調査</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S-200904</td>
<td>唐古・鎧遺跡</td>
<td>試掘調査</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

計        | 174  | 7   | 91   | 1,702 | 51  | 1,690 |
（2）資料の撮影と写真・図面のデジタル化

写真撮影は、町内の各遺跡から出土した木製品や特殊土器等を全番展、町指定文化財詳細補充物に
伴う遺物の撮影をおこなった。また、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示品である唐古・鍵遺跡の
弥生土器（記号土器）と補築柵寺納帳の写真デジタル化をおこなった。

【写真撮影一覧】

<table>
<thead>
<tr>
<th>種類</th>
<th>資料名・内容</th>
<th>フィルム（4×5）</th>
<th>カット数</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>考古遺物</td>
<td>唐古・鍵遺跡 木製品（橋脚ほか） 保津・宮古遺跡 木製品（陶器） 京都北遺跡 土師器装・本製品（円形木製品） 宮古前遺跡 木製品（用具不明木製品） 十六南・表土寺遺跡 木製品（百物ほか） 駒ケ谷遺跡 木製品（中折り）</td>
<td>カラーポジ モノクロネガ</td>
<td>2 43</td>
<td>報告書用</td>
</tr>
<tr>
<td>古文書</td>
<td>郊外遺跡 木製品（記号土器）</td>
<td>カラーポジ 56枚</td>
<td>36</td>
<td>秋季企画展</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td></td>
<td>カラーポジ 61枚</td>
<td>43枚</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【デジタル化一覧】

<table>
<thead>
<tr>
<th>内容</th>
<th>カラーポジ（4×5）</th>
<th>成果品</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>古文書</td>
<td>郊外遺跡 56枚</td>
<td>DVD1枚</td>
</tr>
<tr>
<td>唐古・鍵遺跡 99枚</td>
<td>秋季企画展2枚</td>
<td>DVD1枚</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>55枚</td>
<td>DVD2枚</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（3）図書の受領

平成21年度は、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムに関係諸機関・個人（309機関等）
から1,070冊の図書の寄贈を受けた。また、図書の購入は12冊である。

【受領図書】

<table>
<thead>
<tr>
<th>分類</th>
<th>報告書</th>
<th>概要</th>
<th>現象資料</th>
<th>年報</th>
<th>総報</th>
<th>図書</th>
<th>パンフレット</th>
<th>紀要</th>
<th>会報</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>書籍</td>
<td>564</td>
<td>59</td>
<td>3</td>
<td>57</td>
<td>22</td>
<td>78</td>
<td>44</td>
<td>71</td>
<td>6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分類</th>
<th>論文集</th>
<th>たより</th>
<th>発表資料</th>
<th>般行本</th>
<th>雑誌</th>
<th>目録</th>
<th>その他</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>書籍</td>
<td>6</td>
<td>99</td>
<td>8</td>
<td>10</td>
<td>7</td>
<td>3</td>
<td>33(1)</td>
<td>1,070</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※上記冊数には、2冊以上の寄贈99冊を含んでいない。※（ ）の数字は、DVD1枚の内数である。
2. 遺跡・文化財の保護

（1）史跡の追加指定

唐古・鍵遺跡は、平成11年1月27日、唐古池を中心とする範囲の98,957.73m²（150箇）について国の史跡指定を受けた。また、平成14年12月19日には、鍵地区において検出した弥生時代中期初頭の大型建物跡部分を含む1,857.93m²（鍵248番2他7箇）を、平成20年3月28日には1次指定を受けた南端の一部と平成14年の追加指定を受けた土地の東側隣接地442.18m²について、追加指定を受けた。

平成21年度は、第1次指定地の西南隅の一画について地権者の同意が得られたので、文化庁へ意見具申書を提出したが、告示は平成22年度の予定である。

【史跡の指定面積と公有化面積】

<table>
<thead>
<tr>
<th>指定面積</th>
<th>公有化面積</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>102,181.98m²</td>
<td>69,375.8m²</td>
</tr>
</tbody>
</table>

唐古・鍵遺跡の指定地状況
（2）町指定文化財

平成21年度は、田原本町文化財保護審議会を開催し、町指定文化財の候補として田原本町敷間の。

補観寺所有の銅像とし、調査・写真撮影をおこなった。

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野</th>
<th>氏名</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>建築</td>
<td>林一郎</td>
<td>委員長</td>
</tr>
<tr>
<td>考古学</td>
<td>野村信</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>考古学</td>
<td>寺澤洋</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>歴史</td>
<td>和田栄</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>歴史</td>
<td>谷山正道</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>彫刻</td>
<td>鈴木喜博</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【町指定文化財一覧】

<table>
<thead>
<tr>
<th>台帳番号</th>
<th>種別</th>
<th>名称及び具数</th>
<th>所有者</th>
<th>時代</th>
<th>指定年月日</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>有形文化財（考古資料）</td>
<td>「楼閣」が描かれた土器片 3点 唐古・難道跡第47・77次調査出土</td>
<td>田原本町</td>
<td>弥生時代（中期）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>有形文化財（考古資料）</td>
<td>靑磁製勾玉と磨石容器（重付） 一式 唐古・難道跡第80次調査出土 1.青磁製勾玉 2点 2.磨石容器 1点 3.容器蓋（土器蓋片）1点</td>
<td>田原本町</td>
<td>弥生時代（中期）</td>
<td>平成20年3月24日</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>有形文化財（鉄器）</td>
<td>木造十一面観音立像 1躯</td>
<td>法貴寺自治会</td>
<td>室町時代（天文10年／1541年）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>有形文化財（古文書）</td>
<td>平野恵平（長崎）出版高松前例西本尊象形状 1.平野恵平宗治秀長等物（天文11年六月二日）折紙1通 2.平野恵平関代秀長等印状（文禄四年八月十一日）折紙1通 錫銅箱 内箱・外箱 包紙（2は2枚有り）</td>
<td>福岡淳介</td>
<td>安土桃山時代（天文11年／1583年）</td>
<td>平成20年12月17日</td>
</tr>
</tbody>
</table>
3. 講座

成人向けの講座として、考古学実践講座の初級編と講演を計5回開催した。また、小中学生向けの体験講座を夏と冬に、親子参加体験イベントを秋に開催した。

【考古学実践講座】

<table>
<thead>
<tr>
<th>実施日</th>
<th>内容</th>
<th>講師</th>
<th>受講者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>金13日（土）</td>
<td>初級編</td>
<td>考古学入門</td>
<td>本館 河森</td>
</tr>
<tr>
<td>7月11日（土）</td>
<td>遺跡を見る</td>
<td>本館 藤田</td>
<td>33名</td>
</tr>
<tr>
<td>8月8日（土）</td>
<td>遺跡を観察する</td>
<td>本館 藤田</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2月20日（土）</td>
<td>大福遺跡の調査</td>
<td>藤井市教育委員会</td>
<td>丹羽 恵二氏</td>
</tr>
<tr>
<td>3月20日（土）</td>
<td>平等坊・岩室遺跡の調査</td>
<td>藤井市教育委員会</td>
<td>石田 大輔氏</td>
</tr>
<tr>
<td>5日間</td>
<td>5講座</td>
<td></td>
<td>96名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

考古学実践講座では大和弥生集落研究最前線と題し、県内の弥生時代に営まれる遺跡の最新情報についての講演を、各教育委員会より講師を招いておこなった。

2月20日の「大福遺跡の調査」では、塚井・大福遺跡はひとつの遺跡でありながら行政的区分により総合的な調査がおこなえないという問題がある点、またその隣にある大福遺跡が基域から二次的な集落へと変化していく点について、両遺跡の関係に踏み込んだ解説があった。出土した各種青銅器類関連遺物や土器、炭化米などの詳しい紹介があった。

3月20日の「平等坊・岩室遺跡の調査」では、環濠と集落範囲の拡大を、時期を追って遺構や遺物の写真を提示しながらの解説があった。また、弥生時代後期になると集落内部に方畳の敷きずに区画した場所がつくられていた。この時期になんらかの有力者（首長層）が出現していた可能性を示唆されている。

大和弥生集落研究前線は平成22年度の考古学実践講座にも継続する予定である。
<table>
<thead>
<tr>
<th>実施日</th>
<th>内容</th>
<th>会場</th>
<th>参加者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>7月22日（水）</td>
<td>塩築づくりに挑戦</td>
<td>陶芸室</td>
<td>24名</td>
</tr>
<tr>
<td>8月6日（木）</td>
<td>塩築づくりに挑戦</td>
<td>陶芸室</td>
<td>30名</td>
</tr>
<tr>
<td>8月19日（水）</td>
<td>勾玉づくりに挑戦</td>
<td>陶芸室</td>
<td>24名</td>
</tr>
<tr>
<td>12月13日（日）</td>
<td>スタンプづくりに挑戦</td>
<td>工作室</td>
<td>26名</td>
</tr>
<tr>
<td>11月28日（土）</td>
<td>弥生生活体験イベント</td>
<td>唐古・鶴遠跡現地</td>
<td>親子33名</td>
</tr>
<tr>
<td>5日間</td>
<td>7メニュー</td>
<td></td>
<td>137名</td>
</tr>
</tbody>
</table>
4. 学校教育等への支援

（1） 小学校出前授業・教材貸出
町内小学校からの依頼を受け、総合的学習の時間及び社会科・家庭科等の授業として、以下内容の出前授業をおこなった。今年度は町内の5小学校全てにおいて実施した。また、初めての試みであったが、これらの児童の作品や成果を「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」として2月に開催し、238名が観覧した。

【出前授業】

<table>
<thead>
<tr>
<th>実施日</th>
<th>学校・学年</th>
<th>児童数</th>
<th>内 容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4月24日</td>
<td>北小学校  6年</td>
<td>2クラス（46名）</td>
<td>ミュージアム見学</td>
</tr>
<tr>
<td>5月18日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>土器づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>5月29日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>火祭し・赤米炊飯・脱穀</td>
</tr>
<tr>
<td>6月25日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>土器の野焼き・勾玉づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>6月1日</td>
<td>東小学校  6年</td>
<td>1クラス（12名）</td>
<td>火祭し・赤米炊飯</td>
</tr>
<tr>
<td>10月27日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>勾玉づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>6月12日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>勾玉づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>10月23日</td>
<td>南小学校  6年</td>
<td>2クラス（61名）</td>
<td>土器づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>11月19日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>土器の野焼き・火祭し</td>
</tr>
<tr>
<td>6月15日</td>
<td>平野小学校 6年</td>
<td>3クラス（70名）</td>
<td>勾玉づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>11月5日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>勾玉づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>12月4日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>勾玉づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>4月15日</td>
<td>田原本小学校 6年</td>
<td>4クラス（119名）</td>
<td>ミュージアム見学</td>
</tr>
<tr>
<td>5月21日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>火祭し・赤米炊飯</td>
</tr>
<tr>
<td>9月7・8日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>土器づくり</td>
</tr>
<tr>
<td>10月13日</td>
<td></td>
<td></td>
<td>土器の野焼き</td>
</tr>
<tr>
<td>18日間</td>
<td>12クラス（延べ1,088名）</td>
<td></td>
<td>メニュー延べ24</td>
</tr>
</tbody>
</table>

小学校出前授業（東小学校）
小学校出前授業（田原本小学校）
（2）中学校職場体験学習
中学生の職場体験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れ、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムで体験学習を実施した。

【体験学習】

<table>
<thead>
<tr>
<th>期 間</th>
<th>学 校 名</th>
<th>内 容</th>
<th>人 数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>11月4・5・6日</td>
<td>田原本中学校</td>
<td>土器洗浄・遺物選別・石器の整理</td>
<td>3名</td>
</tr>
<tr>
<td>11月10・11・12日</td>
<td>北中学校</td>
<td>土器研本・ミュージアム受付</td>
<td>3名</td>
</tr>
<tr>
<td>6日間</td>
<td>2学校</td>
<td>延べ10メニュー</td>
<td>延べ18名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

中学校職場体験（田原本中学校）
中学校職場体験（北中学校）

（3）大学の学外授業
博物館実習として、大学生4名を受け入れ、下記内容の授業をおこなった。また、奈良大学の通
信教育の課外授業として、4回受け入れた。

【博物館実習】

<table>
<thead>
<tr>
<th>実 施 日</th>
<th>内 容</th>
<th>受講者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>9月1日（火）</td>
<td>ミュージアムの概要（ガイダンス）・夏季ミニ展示の片付け</td>
<td>同志社大学 3名</td>
</tr>
<tr>
<td>9月2日（水）</td>
<td>夏季ミニ展示の片付け</td>
<td>京都女子大学 1名</td>
</tr>
<tr>
<td>9月3日（木）</td>
<td>遺物の写真撮影方法・工房向け解説シートの作成</td>
<td>合計 4名</td>
</tr>
<tr>
<td>9月4日（金）</td>
<td>ホームページ・解説パネル・チラシの作成</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4日間</td>
<td></td>
<td>延べ16名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

—106—
【学外授業】

<table>
<thead>
<tr>
<th>実施日</th>
<th>内容</th>
<th>人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>7月19日（日）</td>
<td>奈良大学·通信教育課程「文化財学講談Ⅱ」</td>
<td>117名</td>
</tr>
<tr>
<td>8月29日（土）</td>
<td>唐古・鎌倉時代の現状説明</td>
<td>54名</td>
</tr>
<tr>
<td>2月13日（土）</td>
<td>唐古・鎌倉時代ミュージアムの概要説明・展示品解説</td>
<td>28名</td>
</tr>
<tr>
<td>3月13日（土）</td>
<td></td>
<td>28名</td>
</tr>
<tr>
<td>4日間</td>
<td></td>
<td>計227名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（4）講師の派遣

上記以外に、教育委員会等の事業として下記のとおり職員を派遣した。

<table>
<thead>
<tr>
<th>実施日</th>
<th>講座名等</th>
<th>人数</th>
<th>演題</th>
<th>講師</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>10月25日（日）</td>
<td>秋季特別講演「朝鮮・先秦時代の青铜器製造」研究講座</td>
<td>約200名</td>
<td>唐古・鎌倉時代の青铜器製造工について</td>
<td>齊田 三郎</td>
</tr>
</tbody>
</table>

博物館実習
5. 刊行物一覧

本年度は、下記4点の書物を印刷した。

【刊行物名】

<table>
<thead>
<tr>
<th>書籍名</th>
<th>発行日</th>
<th>部数</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>唐古・鍵考古学ミュージアム 春季企画展覧録『寺内町と陣屋の考古学』</td>
<td>2009年4月</td>
<td>3,000部</td>
<td>田原本寺内町や平野氏陣屋・芝陣屋・根本陣屋等を紹介 平成20年度の発掘調査成果</td>
</tr>
<tr>
<td>唐古・鍵考古学ミュージアム 秋季企画展覧録『弥生グラフィティー』</td>
<td>2009年10月</td>
<td>3,000部</td>
<td>唐古・鍵遺跡から出土した弥生土器に記号が描かれた記号（文）土器を紹介</td>
</tr>
<tr>
<td>唐古・鍵考古学ミュージアム ミュージアムコレクション Vol3</td>
<td>2010年3月</td>
<td>2,500部</td>
<td>町広報に掲載したミュージアムコレクションNo.51～64の編訂版・第7編</td>
</tr>
<tr>
<td>田原本町文化財調査年報18 2008年度</td>
<td>2010年2月</td>
<td>700部</td>
<td>平成20年度の文化財事業の報告</td>
</tr>
</tbody>
</table>

なお、印刷発注はおこなわなかったが、下記の展示解説シートを作成し、唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページ「展示品紹介」のコンテンツに追加した。

夏季ミニ展示解説シート

「田原本の遺跡Vol.5 十六面・薬王寺遺跡—弥生から近世までの複合遺跡—」（2008年7月）
6. 資料の活用

（1）資料の貸出

平成21年度は、7機関に延べ9込まれ292点の遺物等を貸出した。貸出内容は、唐古・鍾遺跡の出土品が大半である。唐古・鍾遺跡では、青銅器鋳造関連遺物の大量貸出があった。また、絵画土器の貸出も多い。

【資料貸出一覧】

<table>
<thead>
<tr>
<th>資料館名/展覧会名</th>
<th>遺跡名</th>
<th>資料名</th>
<th>点数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>古代山形歴史博物館／「輝く真珠の舞い」古代出雲の工房一</td>
<td>唐古・鍾遺跡</td>
<td>ヒスイ製勾玉（大・小）2・褐鉄鉄管器・竪2・ヒスイ製丸玉2・水晶製丸玉1</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>兵庫県考古博物館／「大型建物から見えてくること--戦前社会のまち--」</td>
<td>唐古・鍾遺跡</td>
<td>大型建物柱出士土器14・大型建物柱1・戦前建物出土器22・器台1・絵画土器（模倣・大型建物ほか）8</td>
<td>54</td>
</tr>
<tr>
<td>大阪府立弥生生生物博物館／「弥生館」～弥生館の展示～</td>
<td>唐古・鍾遺跡</td>
<td>織部1・絵画1</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>愛知考古学研究所附属博物館／「銅鏡・弥生時代の青銅器生産」</td>
<td>唐古・鍾遺跡</td>
<td>土製銅鏡類外付10・土製銅鏡類外付70・卜猪土製銅鏡類外付1・高环土製銅鏡類29・縄石11・鉄器・鉄板3・瓦・土台1・鏡台1・鏡片1・石製銅鏡類4・刀剣1・実験考古学見1</td>
<td>216</td>
</tr>
<tr>
<td>福井市立境風文化財センター／「弥生後期の薬師寺」</td>
<td>唐古・鍾遺跡</td>
<td>鉄矛1・鉄鏡1</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>松山市考古博物館／「ハニラの世界」</td>
<td>保津川古墳</td>
<td>家形基壇1</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>松山市考古博物館／「伝・松山」</td>
<td>笠岡山2号墳</td>
<td>馬形基壇1・馬形基壇1</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>高崎市立川治資料館／「弥生館」</td>
<td>唐古・鍾遺跡</td>
<td>人形土製品：絵画土器2（手を挙げる人物像）2・ヒスイ製勾玉1・弥生人頭像模数1</td>
<td>292</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【種別による貸出点数】

| 種別 | 資料館 | 土器 | 塗輪 | 土製品 | 石器 | 木器 | 青銅器 | 骨角器 | ガラス | 骨・貝 | 異種 | レプリカ | 模使用 | 総点数 |
|------|--------|------|------|-------|------|------|--------|--------|--------|--------|------|-------|--------|--------|---------|
|      |        | 47   | 3    | 171   | 23   | 2    | 6      | 0      | -      | 14     | 23   | 292   | -      | 292    |
(2) 写真掲載・撮影

写真の貸出及び掲載（転載含む）は48件288点であった。写真掲載の内容は、唐古・鍛造跡の出土遺物や唐古・鍛造古学ミュージアム内の展示風景の利用度が高い。

<table>
<thead>
<tr>
<th>貸出先/展示名/期間</th>
<th>産業</th>
<th>資料名</th>
<th>点数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>安土城考古博物館</td>
<td>唐古・鍛造跡</td>
<td>時代の変化を紡ぐ唐古・鍛造跡</td>
<td>4点</td>
</tr>
<tr>
<td>大阪府立歴史博物館</td>
<td>上彫造跡</td>
<td>地域の歴史を感じる</td>
<td>3点</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2件 7点
<table>
<thead>
<tr>
<th>イメージ</th>
<th>タイトル</th>
<th>著者・編集者</th>
<th>数量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国立古岡学研究所附属図書館</td>
<td>『鉄器・銅器時代の青銅器の第一』</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>一</td>
</tr>
<tr>
<td>田崎本町町会</td>
<td>姫城</td>
<td>榊木名誉</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>NHK西日本放送局</td>
<td>テレビ番組『ニュースコーナー』</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>日本教育会議会</td>
<td>国史地教育 1月増刊号</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>窪木ラジオ演劇</td>
<td>「日本全国こどもキャラクター国際」2 [ザイ]</td>
<td>榊木名誉</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>東京法令出版社</td>
<td>中学歴史教材集『グラフィックブック・イド歴史』</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>共同議員会</td>
<td>『TSR情報』夏学特号</td>
<td>榊木名誉</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>柄本参人</td>
<td>『歷史的ミステリー』91号</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>麻生参人</td>
<td>『歷史的ミステリー』92号</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>柄本一学舎</td>
<td>高等学校日本史教科書『最新日本史』</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>柄本一学舎</td>
<td>『日本人の歴史』 (仮題)</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>柄本一学舎</td>
<td>『日本人の歴史』 (仮題)</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>麻生参人</td>
<td>『歴史的ミステリー』91号</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>麻生参人</td>
<td>『歷史的ミステリー』92号</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>麻生参人</td>
<td>『日本人の歴史』 (仮題)</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>麻生参人</td>
<td>『日本人の歴史』 (仮題)</td>
<td>高田・柳田</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>----------</td>
<td>----------------</td>
<td>-----------------------</td>
<td>----------</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
<tr>
<td>関連活動</td>
<td>月刊「歴史読本」</td>
<td>鴻巣市立鴻巣文化財センター</td>
<td>昭和・鎌倉</td>
</tr>
</tbody>
</table>

---

- 112 -
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
<th>参考文献</th>
<th>件数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>前言</td>
<td>『戦後民放データファイル』第5号</td>
<td>平野健平（監修）「解説」みちのう</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>東亜京書房</td>
<td>中学社会科教科書『新しい社会歴史』</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>日本教育出版・スキャイハイハウス</td>
<td>2010年度選修指定大学入試総合検討マーク表</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>日本教育出版・スキャイハイハウス</td>
<td>中学社会科教科書『社会歴史の分野』</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>文化庁文化財保護文化財課</td>
<td>ウェブサイト「国指定文化財等データベース・文化遺産オンライン」</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>文化庁文化財保護文化財課</td>
<td>「発掘調査の手引き」</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>倉敷みどり</td>
<td>「あかでるマップ」2010年春号</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>総務省</td>
<td>「平成22年分科会」</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>地域振興ネットワーク财団</td>
<td>「有料供與の在の事業」</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>明視川誠社</td>
<td>「2010年度第2回歴史能力検定」</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>博古研究会</td>
<td>「博古研究」第30号</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>文献</td>
<td>「昭和44年卒業生の名簿」</td>
<td>坂本・藤原書</td>
<td>5</td>
</tr>
</tbody>
</table>

計：48件
（3）資料調査
本町所有・保管遺物について、下記の者による資料調査があった。調査は、唐古・錦遺跡の出土品が中心である。

【資料調査】

<table>
<thead>
<tr>
<th>調査日</th>
<th>調査者</th>
<th>資料名</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4月21日</td>
<td>水原尚子（福本大学）</td>
<td>唐古・錦遺跡 番鉄捜査官に納められた1号・2号箇々石勾当</td>
</tr>
<tr>
<td>6月16日</td>
<td>大賀克彦（京都大学院）</td>
<td>唐古・錦遺跡 第10次調査出土玉類</td>
</tr>
<tr>
<td>7月10・13・14日</td>
<td>佐田拓也（花園大学院）</td>
<td>唐古・錦遺跡 第65・69・94次調査出土金具</td>
</tr>
<tr>
<td>8月27・28日</td>
<td>山田晶恵（京都橋大学院）</td>
<td>唐古・錦遺跡 十字</td>
</tr>
<tr>
<td>9月15日</td>
<td>高田浩太・齋治国（鳥取県文化財課 古代文化センター）</td>
<td>唐古・錦遺跡 京焼器調査関連資料</td>
</tr>
<tr>
<td>11月16～18日</td>
<td>谷上真由美（立命館大学院）</td>
<td>唐古・錦遺跡 張生玉器</td>
</tr>
<tr>
<td>12月8日</td>
<td>河野嘉男</td>
<td>唐古・錦遺跡 牛銅宿節付青器十器</td>
</tr>
<tr>
<td>12月17～19日</td>
<td>小林晶博（広島大学大学院）</td>
<td>唐古・錦遺跡 坑坏形土器片</td>
</tr>
<tr>
<td>1月22日</td>
<td>塚本浩太・齋治国（鳥取県文化財課 古代文化センター）</td>
<td>唐古・錦遺跡 木製製器銅製外枠</td>
</tr>
<tr>
<td>2月5日</td>
<td>松原浩（福岡国立長崎博物館）</td>
<td>唐古・錦遺跡 木製製器銅製外枠</td>
</tr>
<tr>
<td>2月25日</td>
<td>佐久間誠（千葉県立中央博物館）</td>
<td>唐古・錦遺跡 第13次調査出土金具</td>
</tr>
<tr>
<td>3月12日</td>
<td>石川ゆうは</td>
<td>唐古・錦遺跡 木製品</td>
</tr>
</tbody>
</table>
7. ボランティア組織

（1）ボランティア組織の概要
唐古・鍛造跡を総合的に支援する任意ボランティア組織として、平成16年4月10日、「唐古・鍛造跡の保存と活用を支援する会」（愛称：唐古・鍛造支援隊）が設立された。平成21年度の会員数は、42名である。

主な活動は、唐古・鍛造跡ミュージアムの展示説明ガイドや小学校の総合的な学習の支援や子ども会等を対象として考古学体験、ミュージアムへの展示活動、文化財保存課（ミュージアム）主催事業への支援等がある。活動については、4月の総会を経て、月例の運営委員会で検討され実施されている。また、「ものづくり教室」の部会では、新しい体験学習メニューの開発や体験学習教材の整備なども月2回おこなわれている。

【唐古・鍛造支援隊の支援活動】

<table>
<thead>
<tr>
<th>活動日</th>
<th>内容</th>
<th>主催</th>
<th>支援</th>
<th>活動人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4月25日・6月6日・10月24日</td>
<td>春季企画展・講演会・報告会・秋季企画展・講演会・ガイド研修会</td>
<td></td>
<td>受付</td>
<td>13人</td>
</tr>
<tr>
<td>6月13日・7月11日・8月8日</td>
<td>考古学実践講座</td>
<td></td>
<td>受付</td>
<td>8人</td>
</tr>
<tr>
<td>2月20日・3月3日</td>
<td>チャレンジ子ども参拝隊（寄骸づくり・勾玉づくり・スタンプづくり）</td>
<td>文化財保存課</td>
<td>支援</td>
<td>31人</td>
</tr>
<tr>
<td>7月22日・8月6日・8月19日</td>
<td>弁生生活体験イベント</td>
<td></td>
<td>支援</td>
<td>10人</td>
</tr>
<tr>
<td>11月28日</td>
<td>総合的な学習（土器づくり・野焼き・祭り・放課・脱穀・勾玉づくり）</td>
<td>北小学校</td>
<td>支援</td>
<td>101人</td>
</tr>
<tr>
<td>5月18日・5月21日</td>
<td>ミュージアム</td>
<td>南小学校</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6月1日・6月12日・6月13日</td>
<td></td>
<td>南小学校</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6月25日・9月7日・9月8日</td>
<td></td>
<td>南小学校</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10月1日・10月27日・11月5日</td>
<td></td>
<td>南小学校</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11月19日・12月1日</td>
<td></td>
<td>南小学校</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2月7日〜21日</td>
<td>田原本町内小学校の総合的な学習展示会</td>
<td>文化財保存課</td>
<td>支援</td>
<td>35人</td>
</tr>
<tr>
<td>11月7日</td>
<td>文化祭（フラスコード）</td>
<td>生涯教育課</td>
<td>支援</td>
<td>12人</td>
</tr>
</tbody>
</table>

延べ324人
【唐古・鍬支援隊の主要活動】

<table>
<thead>
<tr>
<th>活動日</th>
<th>内容</th>
<th>活動人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4月18日</td>
<td>総会</td>
<td>20年度事業報告・21年度事業計画等</td>
</tr>
<tr>
<td>毎月第3土曜日</td>
<td>定例運営委員会</td>
<td>活動内容の相談・報告等（延べ12日）</td>
</tr>
<tr>
<td>5月26日・6月23日・9月30日・10月23日・11月18日・11月19日・12月20日</td>
<td>唐古・鍬遺跡</td>
<td>唐古・鍬遺跡の案内（7日／ガイド数248人）</td>
</tr>
<tr>
<td>毎月第2・4水曜日臨時</td>
<td>ものづくり部会</td>
<td>体験学習用教材（火焔し・炊飯土器等）の製作・整備（延べ30日）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ボランティアガイド連絡会等</td>
<td>ボランティアガイド連絡会（2日／2人）リレーコープ関連（13日／61人）</td>
</tr>
<tr>
<td>7月7日・10月26日・2月19日</td>
<td>唐古・鍬遺跡整備委員会</td>
<td>唐古・鍬遺跡の史跡整備会議</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>延べ68日</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
Ⅲ. 唐古・鍵考古学ミュージアム
1. 企画展・ミニ展示

（1）春季企画展「寺内町と陣屋の考古学—近世田原本の成立—」

内 容：平成20年度に町指定となった「平野権平（長楽）宛豊臣秀吉感状」の公開にあたり、平野氏が誇示して成立した寺内町やその後に築いた陣屋にスポットを当て、さらに周辺地域でも展開した寺内町・陣屋を含めて、近世大和の町場形成とくらしを探った。

期 間：4月18日（土）～5月21日（日）

入館者：791名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数272点）

（Ⅰ）近世の田原本（ケース①～④）
文書・絵図（福岡氏蔵）・瓦（津島神社蔵）

（Ⅱ）今井町の歴史（ケース⑤）
陶磁器（今井環塚集落遺跡）

（Ⅲ）周辺の陣屋町（ケース⑥）
瓦・絵図（芝村陣屋・柳本陣屋）

（Ⅳ）近世の生活文化（ケース⑦～⑧）
児童服・陶磁器・絵・美術・焼物・烙印・塩焼き・火鉢・キセル・泥頭子・独楽・甚・囲石・石板・石碑

（Ⅴ）連帯展（ケース⑨⑩）
玉類（製品・未成品）・瓦（秦楽寺遺跡）

【展示ケースの配置】

春季企画展チラシ

展示風景
【借用遺物】

<table>
<thead>
<tr>
<th>遺跡名</th>
<th>遺物名</th>
<th>点数</th>
<th>所蔵者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>今井寺内町 (瓦貨売1・築在一1・陶磁器31・土釜1・ída1・温石1・瓷石</td>
<td>47点</td>
<td>横浜市教育委員会</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3・管1・斧1・横樋1・小柄1・黒塗塗1・キセル3)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>苔森遺跡 (軒梁丸2・軒丸丸1・平丸1・鬼丸丸</td>
<td>5点</td>
<td>横浜市教育委員会</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>芝村絵画1</td>
<td>1点</td>
<td>芝村自治会</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>梅本遺跡 (軒梁丸2・軒丸丸4・絵画2・挙呂室1・行平銀3・湿焼菜</td>
<td>32点</td>
<td>横浜市教育委員会</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>蓋1・茶香深14・キセル1・上製玩具4)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>平野氏の家伝瓦1</td>
<td>1点</td>
<td>伊勢神社</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>平野家平尾羽羽秀興物1/平尾家平尾羽羽秀興印状1/徳川家康黒印状</td>
<td>4点</td>
<td>高岡洋介氏</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>平田1/大和町十都郡本町本村公1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

5遺跡等 (32製品) 90点 5機関等

【出本町保管遺物】

<table>
<thead>
<tr>
<th>遺物名</th>
<th>遺物名</th>
<th>点数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平野氏財産跡</td>
<td>機船(2)、案内(1)、しあわせ(1)、箸(2)、焼香(3)、磁器(7)、キセル</td>
<td>39点</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(3)、灯明箱(4)、火打石(7)、碗(4)、石板(5)、石(2)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>寺内町遺跡</td>
<td>梅川家染付十五回(1)、焼唐(1)、焼器(1)、片口鉢(1)、温石(1)、焼物(2)、</td>
<td>27点</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>泥笛子(20)</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【関連イベント】

<table>
<thead>
<tr>
<th>イベント名</th>
<th>内容</th>
<th>日時・場所</th>
<th>参加人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>講演会</td>
<td>平野氏と田原本</td>
<td>4月25日（生）</td>
<td>90人</td>
</tr>
<tr>
<td>報告会</td>
<td>冨山 正義（町文化財保存協会）</td>
<td>午後1時～4時</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
（2）秋季企画展「弥生グラフィティー～唐古・遺跡跡の記号土器～」

内容：弥生時代後期には、近畿地方、特に奈良盆地南部を中心とした地域で記号を刻んだ記号土器が発達した。この記号は絵画から変化したという説や文字の原形ではないかという説があるなど、未だ議論が絶えない。このような記号土器を唐古・遺跡跡の出土品から紹介・分類し、その変遷と性格を考察した。

期間：10月17日（土）～11月22日（日）

入館者：981名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数129点）

（I）弥生記号の始まり（ケース①②③）
　壷・壷・高帯・漆容器（弥生時代前期～中期）

（II）弥生記号の体系化（ケース④～⑨）
　直線の記号・曲線の記号・点・連続の記号

（III）記号体系の展開（ケース⑩⑪⑫）
　記号の組合せ・並列の記号

（IV）記号の終焉（ケース⑬）
　龍の絵画・龍の記号・龍から変形した文様・弧帯文

秋季企画展チラシ

【展示ケースの配置】
【一時返却資料】

<table>
<thead>
<tr>
<th>遺跡名 (遺物名・点数)</th>
<th>点数</th>
<th>所蔵者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>唐古・鍬遺跡（長頸壷5・広口壷4・短頸壷1）</td>
<td>10点</td>
<td>奈良県立橿原考古学研究所附属博物館</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【田原本町保管遺物】

<table>
<thead>
<tr>
<th>遺跡名等</th>
<th>遺物名</th>
<th>点数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>唐古・鍬遺跡第1次調査後</td>
<td>直線の記号土器（高第1・短頸壷4・長頸壷20・広口壷7・細頸壷1・蛋8・破片9）、曲線の記号土器（小形短頸壷1・小形長頸壷1・短頸壷2・長頸壷21・広口壷11・蛋2）、点・連続の記号（短頸壷2・長頸壷1・広口壷2）、記号の組合せ（長頸壷9・破片3）、並列の記号（長頸壷1・広口壷3・蛋2）、龍の記号・絵画・文様（長頸壷3・広口壷1・合付壷1・破片2）、絵画土器（短頸壷1）</td>
<td>119点</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【関連イベント】

<table>
<thead>
<tr>
<th>イベント</th>
<th>内容</th>
<th>日時</th>
<th>場所</th>
<th>参加人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>講演会</td>
<td>廣本 裕行氏（橿原考古学研究所総括研究員） 「弥生記号の世界～記号の意味するところ～」</td>
<td>10月24日（土）午後2時～4時</td>
<td>榮講堂室</td>
<td>35名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（3）ミニ展示

ア. 夏季ミニ展示

発掘調査をおこなった町内の遺跡や出土品などを紹介する「田原本町遺跡5 弥生から近世までの複合遺跡 十六面・薬王寺遺跡」展を7月25日（土）～8月30日（日）まで開催した。

【展示の構成と内容】（展覧期間：37日間／展示点数66点）

（I）弥生時代の十六面・薬王寺遺跡（ケース①）
- 記号土器・銅鏃

（II）古墳時代十六面・薬王寺遺跡（ケース②③）
- 古式土師器・滑石製鏡造品・管玉・丸玉

（III）歴史時代の十六面・薬王寺遺跡（ケース④）
- 土師皿・瓦器・銅鏡
（4）特別展示「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」

内容：田原本町内の各小学校で実施している総合的学習の時間帯を利用した出前授業では、唐古・錬支援隊の支援の下で小学生に土器づくりや米伝統食をはじめとした体験学習をおこなっている。今年度の授業の成果である土器や鉢玉の完成品等を展示陳列した「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」を開催した。

期間：2月17日（水）～21日（日）

観覧者：238名（特別展示のみ）

【展示の構成と内容】（展示点数308点）

（1）北小学校
土器・鉢玉・貫頭衣・新聞

（Ⅱ）平野小学校
土器・鉢玉・貫頭衣・新聞

（Ⅲ）田原本小学校
土器・新聞

（Ⅳ）南小学校
土器・鉢玉・新聞

（V）東小学校
鉢玉・新聞

（Ⅵ）唐古・錬支援隊
火薬の道具（火薬枡・火薬臼・着火材・火吹き）
竹・グラスアート（見本瓶・見本グラス）・土器炊飯の道具（炊飯用土器・五徳）・脱穀の道具（未米・黒米・臼・撚杵・割・手篩）・スタンプづくり（見本スタンプ）・貫頭衣

【展示ケースの配置】

展示風景
2. 入館者・ホームページ

（1）入館者数
平成21年度の入館者数は、9,634人である。前年度の入館者数を比べると、本年度の入館者数は約5％増加した。なお、平成22年1月1日より平成139年1月1日を開始しており、それに伴って「せんとうくんクーポン」が発売されている。クーポンを利用した場合、観覧料は一般150円、高・大学生50円となっている。

【年度別入館者推移】

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>開館日数</th>
<th>有料入館者</th>
<th>無料入館者</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>一般</td>
<td>高・大学生</td>
<td>15歳以下</td>
<td>身障者</td>
</tr>
<tr>
<td>16年度</td>
<td>103</td>
<td>1,744</td>
<td>131</td>
<td>1,345</td>
</tr>
<tr>
<td>17年度</td>
<td>306</td>
<td>4,988</td>
<td>401</td>
<td>3,000</td>
</tr>
<tr>
<td>18年度</td>
<td>306</td>
<td>2,956</td>
<td>911</td>
<td>3,138</td>
</tr>
<tr>
<td>19年度</td>
<td>306</td>
<td>3,760</td>
<td>483</td>
<td>2,933</td>
</tr>
<tr>
<td>20年度</td>
<td>307</td>
<td>3,473</td>
<td>367</td>
<td>2,790</td>
</tr>
<tr>
<td>21年度</td>
<td>307</td>
<td>4,204</td>
<td>585</td>
<td>2,123</td>
</tr>
<tr>
<td>累計</td>
<td>1,629</td>
<td>21,131</td>
<td>3,078</td>
<td>15,589</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※ 16年度は、11月24日から3月31日まで延べ103日の入館者数。

【企画展 入館者数】

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>開館日数</th>
<th>有料入館者</th>
<th>無料入館者</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>一般</td>
<td>高・大学生</td>
<td>15歳以下</td>
<td>身障者</td>
</tr>
<tr>
<td>17年度</td>
<td>春季</td>
<td>32</td>
<td>733 (211)</td>
<td>43 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>秋季</td>
<td>32</td>
<td>349 (25)</td>
<td>31 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>18年度</td>
<td>春季</td>
<td>32</td>
<td>340 (52)</td>
<td>65 (41)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>秋季</td>
<td>32</td>
<td>0 (0)</td>
<td>0 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>19年度</td>
<td>春季</td>
<td>32</td>
<td>332 (54)</td>
<td>21 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>秋季</td>
<td>32</td>
<td>0 (0)</td>
<td>0 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>20年度</td>
<td>春季</td>
<td>32</td>
<td>303 (28)</td>
<td>15 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>秋季</td>
<td>32</td>
<td>231 (0)</td>
<td>44 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>21年度</td>
<td>春季</td>
<td>32</td>
<td>412 (186)</td>
<td>20 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>秋季</td>
<td>32</td>
<td>388 (147)</td>
<td>16 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>320</td>
<td>3,118 (703)</td>
<td>255 (41)</td>
<td>1,751 (346)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※ 1 企画展入館者の人数（内数）、18年度・21年度の企画展は無料の為、計入人数はカウントしていない。
※ 2 企画展入館者、その他は、「親子無料入館日」、「関西文化の日」の無料入館者を含む。また、18年度・21年度の企画展入館者、文化庁の「再開文化財保存活用整備事業」の為、無料として、本項に含めた。
### 月別入館者数

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>開館日数</th>
<th>有料入館者</th>
<th>無料入館者</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4月</td>
<td>26</td>
<td>432 (118)</td>
<td>32 (20)</td>
<td>360 (208)</td>
</tr>
<tr>
<td>5月</td>
<td>27</td>
<td>822 (440)</td>
<td>64 (0)</td>
<td>215 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>6月</td>
<td>25</td>
<td>326 (150)</td>
<td>42 (0)</td>
<td>166 (50)</td>
</tr>
<tr>
<td>7月</td>
<td>27</td>
<td>187 (49)</td>
<td>175 (117)</td>
<td>209 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>8月</td>
<td>26</td>
<td>224 (0)</td>
<td>73 (54)</td>
<td>258 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>9月</td>
<td>25</td>
<td>377 (150)</td>
<td>6 (0)</td>
<td>87 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>10月</td>
<td>27</td>
<td>649 (310)</td>
<td>53 (38)</td>
<td>106 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>11月</td>
<td>25</td>
<td>557 (263)</td>
<td>23 (0)</td>
<td>212 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>12月</td>
<td>24</td>
<td>157 (67)</td>
<td>13 (0)</td>
<td>98 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>1月</td>
<td>24</td>
<td>196 (50)</td>
<td>14 (0)</td>
<td>66 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>2月</td>
<td>24</td>
<td>133 (2)</td>
<td>54 (54)</td>
<td>166 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>3月</td>
<td>25</td>
<td>144 (0)</td>
<td>36 (28)</td>
<td>170 (0)</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>307</td>
<td>4,204 (1,599)</td>
<td>585 (311)</td>
<td>2,123 (258)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※[ ] はぜんたくクーポンの利用者数（内数）
※（ ）は団体入館者の人数（内数）
※その他は、研修での利用（減免）・ボランティア研修などの来館者。

### 入館者の内訳

入館者の内訳は下記の通りです。

- 一般: 43.6%
- 高・大学生: 22.0%
- 15歳以下: 11.1%
- 身障者: 1.2%
- 招待者: 2.7%
- その他: 24.4%

### 入館者の月別推移

入館者の月別推移は、4月から7月頃まで増加し、8月から9月頃まで減少の傾向が見られます。10月から11月にかけて再び増加の傾向が見られるものの、12月から1月にかけては再び減少の傾向が見られます。

また、全体に対する団体の割合は、約23%で増加傾向である。特に団体入館者の多い4月・5月と10月・11月は企画展の開催に加えて、行楽日和に合わせて各地をウォーキングで巡る団体が来館するためであると思われる。

入館者の月別推移は、開館2年目以降、同様な傾向で企画展を開催する5月と11月の2つの月にピークがみられ、逆に9月と12月にかけて落ち込み傾向が見られる。

無料入館日の入館者は、5月5日（火・祝）のこどもの日（親子・保護者を対象）87名、関西文化の日の11月21日（土）436名、22日（日）357名の総計880名であった。
（2）入館者アンケート

入館者アンケート（常設展示）を実施した。回答総数614件、回答率4〜6％である。

【入館者居住地別 年度推移】


【ミュージアムを知った理由】


【来館目的】


（3）視察・研修・学校等からの来館

平成21年度は、下記のとおり視察・研修7件35名、学校の利用5校451名、海外から研究者64名の来館があった。

視察・研修
檀原考古学研究所（4月8日/4名）・和歌山県新宮市（5月27日/8名）・国家公務員研修（6月24日/3名）・檀原考古学研究所（7月7日/7名）・田原本町教育委員会（8月18日/8名）・鹿児島県立埋蔵文化財センター（11月4日/3名）・吉野ヶ里公園管理センター（2月8日/2名）

学校利用
田原本小学校6年生（4月15日/116名）・北小学校6年生（4月24日/46名）・平野小学校3年生（6月23日/50名）・東小学校6年生（7月14日/12名）・奈良大学通信教育（7月19日/117名、8月29日/54名、2月13日/28名、3月13日/28名）

海外研究者
福建省博物館（6月2日/1名）・龍谷大学留学生（6月2日/2名）・国立台南藝術大学（7月11日/3名）・韓国中部考古学研究所（12月3日/2名、1月26日/2名）・中原文化財研究所（1月26日/1名）・仁済大学（1月28日/42名）・慶州博物館（2月5日/1名）・韓神大学（2月18日/10名）
（4）ホームページ

刊行物案内の「これまでに刊行した書籍（案内）」と、収蔵資料検索の「唐古・遺跡（一般用）」をリニューアルした。刊行物案内では各書籍の画像と内容の紹介を追加し、収蔵資料検索ではこれまでのテーマ別検索に加えて新たに収蔵別検索が可能となった。また、平成21年度のアクセス件数は11,303件で、前年度より約20%増加した。

【ホームページのアクセス数】

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>平成16年度</th>
<th>平成17年度</th>
<th>平成18年度</th>
<th>平成19年度</th>
<th>平成20年度</th>
<th>平成21年度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アクセス数</td>
<td>2,518</td>
<td>8,321</td>
<td>8,183</td>
<td>10,291</td>
<td>9,391</td>
<td>11,303</td>
</tr>
<tr>
<td>累計</td>
<td>2,518</td>
<td>10,842</td>
<td>19,025</td>
<td>29,316</td>
<td>38,707</td>
<td>50,019</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【刊行物案内 > これまでに刊行した書籍（案内） トップページ】

【収蔵資料検索 > 唐古・遺跡（一般用） トップページ】

この収蔵資料検索は、唐古・遺跡資料ミュージアムの最上位を中心に構成されています。検索・ダウンロードから印刷の資料を検索できます。
3. ボランティアガイド

(1) ボランティアガイドの実績

ミュージアムの展示品解説ボランティアは、開館以来実施している。ガイドは年度単位とし、継続更新は可としている。平成21年度のガイドの登録は40名で、21年度の新規登録者は1名である。基本的に月2回の午前10時から午後4時（冬季の12月・2月は午前11時から午後3時）までとし、常勤2人体制で実施した。また、団体客等多数の来館の場合に備えて、応援ガイド体制を作りその期間のみ臨時に対応している。このような体制で、下表実績に示すとおり約5割の来館者に対応した。ガイドの研修は、6月6日に「弥生土器について～縄文・用具・家年代ety～」を実施した。

【展示ボランティアガイド実績】

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>開館日数</th>
<th>参加人数</th>
<th>ガイド人数※1</th>
<th>入館者数 (常駐者のみ)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4月</td>
<td>26日</td>
<td>60人</td>
<td>470人</td>
<td>718人</td>
</tr>
<tr>
<td>5月</td>
<td>27日</td>
<td>68人</td>
<td>578人</td>
<td>887人</td>
</tr>
<tr>
<td>6月</td>
<td>25日</td>
<td>52人</td>
<td>315人</td>
<td>668人</td>
</tr>
<tr>
<td>7月</td>
<td>27日</td>
<td>57人</td>
<td>298人</td>
<td>669人</td>
</tr>
<tr>
<td>8月</td>
<td>26日</td>
<td>49人</td>
<td>272人</td>
<td>709人</td>
</tr>
<tr>
<td>9月</td>
<td>26日</td>
<td>54人</td>
<td>323人</td>
<td>595人</td>
</tr>
<tr>
<td>10月</td>
<td>27日</td>
<td>54人</td>
<td>456人</td>
<td>725人</td>
</tr>
<tr>
<td>11月</td>
<td>25日</td>
<td>52人</td>
<td>380人</td>
<td>1,014人</td>
</tr>
<tr>
<td>12月</td>
<td>24日</td>
<td>48人</td>
<td>151人</td>
<td>386人</td>
</tr>
<tr>
<td>1月</td>
<td>21日</td>
<td>49人</td>
<td>214人</td>
<td>438人</td>
</tr>
<tr>
<td>2月</td>
<td>24日</td>
<td>48人</td>
<td>169人</td>
<td>488人</td>
</tr>
<tr>
<td>3月</td>
<td>26日</td>
<td>50人</td>
<td>164人</td>
<td>469人</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>307日</td>
<td>641人</td>
<td>3,790人 (48%) ※2</td>
<td>7,862人</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※1 ガイド人数は概数  ※2 ガイド数／入館者の割合
IV. 資料の報告
田原本の近世棟端飾瓦と瓦屋・瓦師

河森一浩・清水琢哉・藤田三郎

1. はじめに

これまで田原本町教育委員会では、多神社・津島神社・善光寺など町内の近世社寺の建替えに伴って発掘調査をおこなってきた。また、奈良県文化財保護指導員の中西秀和氏は、町内の社寺等に葺かれた棟端飾瓦について調査をおこなっている。

こうした成果を受け、唐古・難考古学ミュージアムでは、平成20年度春期企画展として「瓦に込めた願い - 田原本の瓦作りと民間信仰 -」展を開催し、年号や瓦屋・瓦師の銘をもつ棟端飾瓦を中心に展示をおこなった。以下では、社寺瓦の全容を示すものではないが、展示に際して集めた神社3ヶ所、寺院9ヶ所と個人所有の棟端飾瓦等の36点について報告する（第1図・第4表）。

第1図 位置図（S = 1/40,000）
2. 据築筒瓦の名称と部位名称

据築筒瓦については、小林幸男氏の一連の研究がある。小林氏は、文献史料や瓦の銘記の表記を整理し、據築筒瓦の1つとして鬼瓦を位置づけるとともにその出現時期を考察した。また、この据築筒瓦については、表面の意匠から、1. 頂尾瓦（屈尾神）、2. 据築筒瓦（亀甲紋）、3. 物騒式筒瓦（招福神）、4. 獅子口瓦（御所・神社・門跡寺院）、5. 鬼面瓦（怪鬼相）、6. 祈願・呪文筒瓦（威厳・願事・呪文）、7. 魚瓦（水と共に防火の神）、8. 鳥矢瓦（飾瓦の最上を飾る）に大別した。なかでも鬼面瓦については、全国各地の中近玩具の鬼面瓦を集成するとともに、瓦製作者の視点からその見方や用語を解説し、形態や技法、変遷を明らかにした。

ここでは、これらの一連の研究成果をもとに田原本町内に点在する据築筒瓦のうち、鬼面瓦と祈願・呪文筒瓦を対象に、その形態や製作技術、特徴について報告する。なお、部位名称については、小林氏の用語を使用する（第2図）。なお、據築筒瓦は、その使用建物や屋根の位置により大槻、二の鬼、降樎鬼、雅鬼鬼があり、形態や形状が異なる。本報告資料では、既に表記していた建物や位置についても扱う範囲で記述することとするが、特定できない資料も多くあり、個々の資料の形態や特徴を中心に述べる。

本報告資料の據築筒瓦としては、鬼面瓦と祈願・呪文筒瓦がある。はじめにそれらの特徴をまとめておく。このほか、隅蓋瓦や平瓦の銘文のあるものも報告する。

【鬼面瓦】表面に鬼の表現がみられるもので、土台部分の「母屋（母家）」は長方形あるいは台形の平面形を呈し、母屋に立挺的な鬼面を張り付けているものである。母屋下端は直線的、あるいは逆ひ伝え形の又縁のある2形態である。また、両端に鯉がつくものとそうでないものや、さらにその下に鯉足元がつくものがある。

第2図 母屋部位名称

-134-
表面の鬼面を貼り付ける部分については一段低くする「落込張り」の手法をとるものがある（図3写右）。また、側辺部分には「連珠」を配するものがみられ、連珠は竹管の押抜や半球形の粘土を貼り付ける手法をとる。鬼面の成形には、合子（型）を用いるものがよい（図3写左）。鬼面の上半と下半部は別のもので、その上半部に合子を用いる例が多い。

表面は「側張り」をとり、母屋に厚みをもたせる。その側張りの手法は大きく2つで、母屋の粘土を割り込むもの（a. 綾取こしらえ、b. 半段取こしらえ）と粘土板を母屋に貼り付ける（c. 張側こしらえ、d. 裏張こしらえ）ものがある。ここでは、側張り a・b・c・d類としておく（図2写下）。

側張りに厚みが出てくることによって、母屋を保持するために粘土板を「補立」を貼り付けることもしている。また、「把手」は、母屋本体に三日月形の孔を2つあけるもの（a. 綾取）、母屋に粘土縫を貼り付け把手にするもの（b. 縫）、前述の補立に孔をあけるもの（c. 補立繊取）がある。それぞれを把手 a・b・c類としておく（図2写右上）。

[折割・呪文絵瓦] 鬼面瓦と同様の母屋をもつとともに魔王・魔足元をつけるものがある。表面には家紋・梵字・七福神などの表現をおこし、総じて平面的である。製作手法は、表面・裏面ともに鬼面瓦と同様で、「落込張り」「連珠」「側張り」「補立」「把手」の工作がみられる。「側張り」や「把手」については、鬼面瓦の分類を使用する。

家紋等の文様のつけ方には、母屋中央部を落込張りし、文様を貼り付けるもの（図3写右）と母屋平面に文様を貼り付けるものがある。

3. 田原本町所在社寺等の棟端飾瓦

（1）多神社

多神社資料館都立古神社（多神社）は田原本町多神宮ノ内に所在する形式内社で、本殿は国の指定文化財になっている。特殿は平成10年に建替えに伴う発掘調査を使用した。この特殿は、後述する特殿大樋の側面の鬼面瓦4の紀年銘から「宝暦九年（1759）」に建造された可能性が高い。なお、多神社の資料館には、この特殿建替えに伴い新たに寄贈された棟端飾瓦等18点が保管されており、今回はその一部である4点を報告する。なお、これら瓦についての詳細は、今後刊行される報告書を参照されたい。
第4図 鬼面瓦1（多神社 拝殿）

鬼面瓦1・2（第4・5図）は、合子型を用いて鬼面を成形するものである。鬼面瓦2の鬼面頭部の横断面は半円形を呈していることから、ほぼ型の形状を推測することができる。鬼面瓦1の下端は打ち割られた可能性があるが、形状としては叉縦があり両端はやや広がるようにみえる。また、母屋中央には割付用と考えられる直線がみられる。裏面は、両者とも削りによって側張（側張b類）を作り出し、中央部には繊取による把手a類があげられている。

鬼面瓦3（第6図）は、側辺に貼付による透珠がつく。また、鬼の頭飾りとして日輪が付けられ、
第5図 鬼面瓦2（多神社 拝殿）
第6図 鬼面瓦 3（多摩社 棟端）
この日輪と日、牙にペンガラと思われる赤色顔料が塗布されている。左側面に「寛嘉五年闰年 三月吉日」、右側面に「瓦工 新口村 椎尾造兵衛」のヘラ様式がある。

鬼面瓦4（第7図）は、鬼の形相が異なる。頭毛を両側に分け、眉や角がつり上がらず横方向にとりつく。また、目は突出し平坦にする特徴をもっている。母屋下に「田瓦平」の押印がある。裏面は、中央に補立を作り、そこに把手の孔（把手と類）をあけている。

(2) 多観音堂

観音堂は、前述多神社の東方約100mに所在する。「多神宮寺観音下地田若帳」（天正二年／1686年）に「観音堂」の記述がみえる。鬼面瓦5～7（第8図）は、平成10年の台風9号に際して観音堂が破損し、再替に伴って床下に保管されていた資料である。鬼面瓦5～7のうち、6・7は同形で、後述鉄文から同じ工人的作と考えられる。5～7の母屋は、側張が半繊取しらえの厚みのないも
第8図 鬼面瓦5〜7（多錦音堂）
ので、把手は繡取のa類である。また、裏面は合子による形で、鬼面頭部の横断面は半円形を呈する。側面部には、竹管の押絹による連珠文が施されている。これらには紀年銘があり、鬼面瓦5と6の左側面にはそれぞれ「寛文三年（1663）」、「宝永六年（1709）」の年号が刻まれている。さらに6の右側面に「多村二ノ口瓦や八兵衛門子　権兵ヘ 勧四郎」、鬼面瓦7の左側面に「和州十市郡二ノ口村かわらや権兵ヘ」、右側面に「多村くわんせ御堂　同勧四郎　八右衛門子」のヘラ書きがある。
(3) 筒部安楽寺

安楽寺は、田原本町大字筒部字西垣内に所在する。阿弥陀如来坐像（江戸時代前期）を本尊とし、
良忍上人坐像（室町時代）や融通念仏縁起図（南北朝／国重要文化財）を所蔵している。後述する
鬼面瓦は、平成2年の本堂の瓦葺替え時に降ろされた資料である。

鬼面瓦8・9は、母屋下辺に鋪が付くタイプ（8）と付かないタイプ（9）であるが、鬼面や連
珠が同じ作風のものである。両者とも上辺の肩に切込を入れる。また、母屋の周縁部は幅1cm程度の
立ち上げ、その内部に貼付による連珠文をめぐらしている。側張は、粘土板の貼り付けによって高
く作られている。鬼面瓦8・9の裏側の把手は撑取の把手a類であるが、8では把手となる両孔の
間に縦方向の粘土を付加し強度を増している。鬼面瓦9には把手孔を穿つために中央に割り付け線
を施している。

鬼面瓦8の右側面には「安永九年（年）庚子三月日」、左側面には「新口村瓦工 梶屋健兵衛」
の、鬼面瓦9の右側面には「已安永八年 亥十月吉日」、左側面には「新口村瓦工 梶屋健兵へ
のへら揃きがある。両者の華美はやや異なるため同工とは断定できないが、同じ工房で製作された
ものであろう。このことから、この工房ではこの安楽寺の瓦の製作が少なくとも安永八年10月から
同九年3月の期間に及んでいた可能性が考えられる。

(4) 津島神社

津島神社は、田原本町小宇九軒町に所在する牛頭天王を祭神とする祇園社で、社殿は天治二年
（1125）の再建の棟栃から増建はさらに過去と考えられる。社殿は、その後の数回の再建によって現在に至っている。また、江戸時代には神宮寺の感神院があったが、明治2年（1869）の神仏分離時に廃寺になるとともに、平野家の本貫地（尾張国津島）にあった津島神社にちなみ社名が改められた。

平成19年の拝殿と社務所の建替えに伴い、葺かれている鬼瓦等を中西秀和氏が調査した。本報告は、中西氏の成果をもとにその一部を掲載する。拝殿と社務所に葺かれている棟端飾瓦の位置は、第4表のとおりである。

鬼瓦10・11（第11・12図上）は上辺を縦絞し、扉に切込をいれるものである。また、側張は半横取こしらえ（側張b類）、把手はa類の縦取である。鬼瓦11には、裏面中央に貼付用の直線を模様にいれる。鬼瓦12（第12図下）は、長方形の母屋をもたず縁辺に飾る装飾を施すものである。隣面には鬼にみられる角や牙が不明確であることから、獅子であろう。側張は張開ころし、把手は貼付である。

祈願・呪文紋瓦1～3（第13図）は拝殿、4～9（第14～16図）は社務所に葺かれていたものである。祈願・呪文紋瓦3の裏側は長方形、その他は下辺に飾りがつくものである。これらの多くは、上辺扉に切込があるとともに主紋部分は落込張りにしている。また、裏面の把手は貼付である。祈願・呪文紋瓦1は飾り枠を付加し、裏側は中央線方向の箱立によって補強している。祈願・呪文紋瓦2には貼り、3には平野家の家紋である「三鶴紋」がみられる。両者の左側面には「南都細工米川□」の工名があるとともに、右側面に「瓦平きしん」、3では「慶長二十八年」のヘラ描きがある。

また、3の裏面の左側面には「村 森田新七 呪進」のヘラ描きがある。祈願・呪文紋瓦4は、獅子
第12図 鬼面瓦11・12（津島神社 拝殿・社務所）
第13図 祈願・呪文紋瓦 1 ～ 3（津島神社 社殿）
第14図  奈文紋瓦 4・5 (津島神社 社務所)
第15図 祈願・祝文経文6・7（津島神社 社務所）
口瓦と折衷したもので上辺に絨の巻をつける。母屋周縁には粘土貼付による進珠がめぐり、中央には落込張によって木瓜紋（五瓜に唐花）を貼り付けている。この家紋は、祇園社に多くみられるものので当社も神紋として採用されているのであろう。左側面に「嘉永元 申十月日」、右側面に「三軒平（町） 瓦屋善四郎 内富吉才工」の御名様きがある。

祈願・呪文紋瓦5は、枚による木瓜紋（五瓜に唐花）をつける。左側面に「三已（わ）町 瓦や 善四郎内富吉才工」、右側面に「嘉永元 申十月日」の御名様きがあり、4と一連のものであろう。

祈願・呪文紋瓦6〜8は、同形・同紋のものである。6の左側面に「亀」、右側面に「呂丸」、7の右側面の上部に「瓦」、下部に「嘉永元年申十月」、8の右側面には「呂丸佐」の御名様きがあり、いずれも同工のものであろう。
第17図 祈願・呪文紋瓦10・隅端瓦1（楽田寺）

祈願・呪文紋瓦9は、凡字部分を落込張にし、その部分に漆喰を貼っていたようでその一部が残存する。

（5）楽田寺

楽田寺は、田原本町字溝町に所在する寺院で、天平元年（729）の創建と伝えられるが詳細は不明である。室町時代中期には、「平壌二十ヶ所計也（「大乗院寺記事記」）とあり、寺内町の南部東半は、この寺院が占めていた可能性がある。本堂は延享三年（1746）以前、釈迦殿は寛延三年（1749）の建築である。平成19年の改築に伴い棟端飾瓦が削去され、中西氏によって調査された。その一部の紀年名のあるものを説明する。

祈願・呪文紋瓦10（第17図上）は、中央部に神縁の造形物を貼り付ける。下辺の両側には漆が付
くが、側面からの側張をド迫まで連結して作り一体化している。右側面に「田原本三己（わ）町瓦仏講寺工」、左側面に「嘉永四 亥五月日」の、ヘラ描きがある。

額蓋瓦1（第17図下）の蓋面は、三叉状の凹部を有するもので、2ヶ所に直径0.7cmの円形孔があく。蓋面には下り獅子と牡丹が造形されている。蓋面に「田原本 三輪町 瓦仏 茅谷 鍛工人 天保十 乙亥十月 由吉」のヘラ描きがある。

（6）鏡作神社

田原本町大尾字トウジに所在する式内社である。中世には神宮寺の東宮関連院が西側に存在していた。本堂の手前厳徳は、この旧堂に伴うものであろう。

鬼面瓦（第18図上）は、大きさからして旧堂の大楕に身かされていたと思われるものである。側面には蝋がつき、側面から縫にかけて貼付の連珠文をめぐらしている。上辺下に横切をいれる。裏面には十字形の繊りつつけ、円孔を穿つことにより把手としている。時部には、乾燥時にすく強のためと思われる最大長16.2cm・最大幅2cmの当て具絵がある。右側面には「今里村 瓦師平七」のヘラ描きがある。

額蓋瓦2（第18図下）は、丸瓦のほぼ中央には、左足を上げ、右手に提燈、左手に樽棒をもつ鬼が造形されている。また丸瓦内面には北山太刀が入る。鬼の背面には「八百村 明和五年 塚内氏作」のヘラ描きがある。

（7）善照寺

善照寺は、田原本町大木字タカハシに所在する。寛政二年（1790）の「御坊付本寺謝下地既付年号年曆控」にとらがみられ、少なくともこの頃には存在していた。報告する鬼面瓦は、平成6年（1994）におこなわれた本堂の改築に伴い散在していたものを中谷美弘氏が採集した資料である。

鬼面瓦14（第19図）は、左右の総足元部分が欠損しているが、打ち割り勧えたものであろう。上辺は肩切込みを入れる。側面の文様は、側面に沿って輪郭線を入れ、その内部に竹管による巡査を押捺している。鬼の頭部には、頭巾と思われる頭被りつがつくる。右側面に「和州安倉村瓦屋出治郎作」、左側面に「元禄十六年 藤原正重、上辺に「末九月吉祥」のヘラ描きがある。側張は縁土板の貼付、把手は縁取で大きくあけられている。

鬼面瓦15・16（第20図・21図上）は、いずれも右側面に「宝慶十弐午八月日」、左側面に「太い懸弥ヘ」、「太い懸弥ヘ」のヘラ描きがあるもので、那呼さ対の鬼面瓦と思われ、同一工房によるものであろう。ただし、鬼面の作風を変えており、15では足が内向きで轟が点描であるのに対し、16では角を直立させ鬼は縁線で表している。側張は破土板の貼付で、家形がある。把手は縁取方向の貼付把手である。

鬼面瓦17（第21図）は、鬼面部分を落込張し、上辺下は斜めにカットする。側面には縫が付き下辺に至るが、下辺は直線的でない。下辺中央部が欠損しているため、その形状は不明であるが、又縫のようにや部をもつのでに関連する出することはある。把手は、鬼面瓦15・16と同じである。

（8）覺光寺

田原本町大木字カイトに所在する。「寫真大念仏記録」に「和州城下郡大木村造場 代々関坊当村無上 此造場従在之時年月日不分明」とあり、詳細については不明である。現在は泥塚堂が残っている。本堂の鬼面瓦は、平成3年（1991）におこなわれた蔵裏の建替えに伴って供えられた資料。
第18図 鬼面瓦13・隅蓋瓦2（鏡作神社）
第20図 鬼面瓦15・16（善照寺）
第21図 鬼頭瓦15・17（善照寺）
料である。

鬼面瓦18（第22図）は、鱗と鱗足元がつくるタイプである。鬼面部分を落込張し、上辺部分に切込を入れる。背面の把手は縦取である。

鬼面瓦19（第22図・23図）は、側辺に鱗がついた渕状の彫文様を施している。この彫文様は、鼻表現にも特徴的に表れている。鬼の頭には宝珠を付けている。大型品であるため、裏面には下辺から放射状に補助が付けられており、把手は縦取によるもので丸くなっている。右側面に「佐佐平次」.
左顔面に「延享四年 卯ノ二月日」のヘラ描きがある。

(9) 教安寺

田原本町大安寺字ソラノエに所在する。本堂は元禄五年（1692）に再建され、嘉永七年（1854）の大地震に際して大改修がおこなわれている。平成6年（1994）には、本堂・山門の建替えがおこなわれ、本堂に昇かれていた鬼面瓦も降ろされた。本資料はその瓦である。

鬼面瓦20（第24図）は、下辺が緩やかに拡がる母屋を有するものである。鬼の容姿は、目・眉・耳など各部位が立体的に表現されており、形相として際立った造形である。特に顔面部が高く作ら
れてているため、立体的になっている。側面は、粘土板の貼付で面厚は高い。右側面に「田原本三巳（む）町か己（な）らやとめさき才工」と、左側面に「弘化二年十一月十一日」の筆記があり、把手は縦方向の貼付把手である。

図説3（第25図）は、三角状四部を有する土台の蓋に獅子の造形物を貼り付けたものである。蓋部左側に「弘化二年十一月十一日」、右側に「田原本三検町瓦屋富吉才工」の筆記がある。この銘文は、前者鬼面瓦20と漢字、かなの違い等一部みられるものの「本」・「才工」の筆跡は同じ。
であることから、同工の作と考えてよい。二者の製作には1ヶ月の差がある。作風は、鬼面瓦と同様、獅子の容態に立体感があり、よく似ている。蓋の土台部分には、直径0.6cmを測る円形孔を5ヶ所あける。

（10）浄福寺

田原本町蔵書字中垣内に所在する。元亀二年（1571）の開基とされ、文政七年（1824）の「万歳帳」から「東浄福寺」、「西浄福寺」の存在が知られている。現在の浄福寺は、「東浄福寺」に当たる。本堂は上層六角、下層方形の構造をもち、棟札から慶応二年（1866）の建築である。本資料の詳細は不明である。

鬼面瓦21（第26図）は、左右の脊足元が欠損しているが、故意に打ち割り整えていると思われる。上辺は常に切込むが、鬼の頭には目輪がつけられている。裏面は練取
による把手a類である。傾張は顕著に出される。薄い。

(11) 光源寺

田原本町金沢寺キトに所在する。安永三年の文書に、「仰世帯仏堂及四密前経等」とあり、江戸時代前期の創建と考えられる。鬼面瓦22（第26図中）の鬼は、目が強調され、鼻周囲に平坦面をもつ特徴ある容姿である。上辺の肩切込みがある。側辺は下辺に向かって服やかに拡がるタイプである。側張は粘土板の貼付で、把手は縦方向の貼付把手である。

(12) 大念寺

大念寺は、桜井市東田に所在する。鬼面瓦の詳細は不明である。鬼面瓦23（第26図下）の鬼の頭飾りには、宝珠が付けられている。左側面に「大安寺村 うノ三月ノ」のヘラ抜きがある。裏面の把手は縦取による把手a類である。
（13）大木・中谷家

中谷家は、田原本町の東部に位置する大木大木に所在する。この集落は、発掘調査の成果から中世以降に成立したと思われ、江戸時代を経て現代に至っている。中谷家はこの大木集落のほぼ中央に位置している。本報告資料、平成17年（2005）におこなわれた中谷義弘家の研究の改修時に降ろされた瓦である。この建物は、明治29年（1896）に建てられたものであるが、後述するように江戸時代の棟端飾瓦なども再利用されたと考えられる。

祈願・呪文絵瓦1（第27図下・下左端・下左2）12（第27図中・下左2・下右）は、同形でともに縦と横の構え方があり、さらにその下にギボウシの葉の形状をしたものがとりつ、下端を作っており、11の主紋は菊花、12の主紋は牡丹で、細やかな粘土細工で貼り付け、また、鎌かしを入れるなど表現が豊かである。11・12の右側面には「田原本三変（わ）町 瓦や富吉才工」、左側面に「嘉永四 支五月日」のヘラ日々が見られることがから、同一石匠によるものと推定でき、前述のようにその作風も同じである。この銘文にみられる「瓦や富吉」は、常安寺の鬼面瓦20・隅蓋瓦3にみられる銘文の石工と同じであり、「本」・「己」・「瓦」・「才工」など共通する筆跡がみられる。
4. 栀端飾瓦の製作と瓦屋・瓦師の分布・流通

(1) 鬼面瓦の変遷

鬼面瓦の変遷については、小林氏が既にその詳細を論じているが、奈良盆地中央部の近世鬼面瓦の傾向を一応とらえておくことにする。報告した鬼面瓦のうち、紀年銘をもつ資料は10点である（第1表）。最も古い資料は多観音寺の鬼面瓦1で寛文三年（1663）、逆に最も新しい資料は教安寺の鬼面瓦20で弘化二年（1845）である。1700年代を中心に前後40～60年の空白期間がみられる。これら資料は数値的な確保ができていない点や鬼面瓦という個的な作品であることから、おおまかな傾向のみ示しておく。
母屋の形態では、鶴のつかないタイプで一つの傾斜が読み取れる。これは下辺の左右端部に広がりがあり、側部の下辺が大きくアールをもつようになる。側壁の手法は、縁取りあるいは半縁取りから張り出しで、厚みのある（立体的な）側壁に変化していく。また、側面部分は、古いタイプでは木造斜壁のように合板を使用するため、鬼入部（頭部）が鬼面下部（口・顔部分）より立体的な作りになっているが、新しくなるとその高低差は少なくなる傾向がみられる。側面の塗り浜では、竹管の押挫から塗り浜の粘土塗りに変化する可能性がある。裏面の把口では、縁取りの把口から締縁取りや締付け把口へ変化するようである。このように見てくると、その工作は16世紀中頃に一つの画期がみられるようで、鬼入の造形が立体的・華麗に変わっていくことが言えそうである。

（2）折頸・呪文紋瓦について

折頸・呪文紋瓦については、報告資料に限りが有り普及できていないが、津島神社や寺田寺、中谷家の開室の資料がある。これらの中には、「田原本三輪町瓦や富吉」名であり同一工房によるものである。したがって、その他の工房の動向が把握できていないので課題が多い。ただし、この工房は鬼入の製作しており、その細工は洗練されている。また、折頸・呪文紋瓦は民家の屋根を飾っており、豪華になる民家の瓦塗りが普及していたことが推定される。

（3）瓦屋・瓦師と瓦の生産流通について

報告された棟端飾瓦のうち瓦屋・瓦師の銘文をもつ瓦は28点を数える（第1表）。これらの瓦屋・瓦師をまとめてると大きく以下のようになる。

1. 「和州十市郡二ノ口村かわらや催兵へ」「同地四郎 八石桔子作」「（多田家）や瓦工新口村」「藤井博士（安楽寺）の銘文をもつ新口村の瓦師」
2. 「瓦屋（や）富吉（とめきち）哉工（哉工）」「（安楽寺・津島神社・楽田村）」「三井（や）小松四郎内富吉哉工」（津島神社）などの銘文をもつ田原本三輪町の瓦師
3. 「八百村（中略）塚田氏作（鎮作神社）の瓦師」
4. 「今里村 北師平七（鎮作神社）の瓦師」

のほか、「銘文上岡町（神社）」「（津島神社）」については、田原本町新町の可能性がある。また、「佐平次」「西瓦佐（サ）・「山下入」銘の工房については、その所在地が特定できないものもある。

1つ目の新口村の瓦師である「和州十市郡二ノ口村かわらや催兵へ」「宝永六（1709）」と「瓦工新口村」「藤井博士（安楽寺）」「宝永九（1759）」「宝永八・九（1779）」については、50年・20年との時期差が認められるが、同一の瓦屋の可能性が高いであろう。この「二ノ口」「新口村」は藤原市新口町に定住でき、これらの瓦屋は、多神社・安楽寺の他にも「藤井博士」と思われる銘をもつ棟端飾瓦が藤原寺南側の拝殿屋根（田原本町藤原寺）や多神社（田原本町藤原寺）で存在しており、田原本町南部を中心に供給されたようである。

2つ目の「瓦屋（や）富吉（とめきち）哉工（哉工）」銘をもつ棟端飾瓦は、天保十年（1859）から嘉永四年（1851）の12年間にみられる。その銘文は同じであり、瓦の作風も類似していることから同一工房と考えて間違いいないようである。また、津島神社の嘉永元年（1848）の折頸・呪文紋瓦4・5に「瓦屋斎四郎・内富吉哉工」の銘があり、この「瓦屋斎四郎」は中西家の調査によれば田原本町川越町村東平家東棟の棟端飾瓦にも正德四年（1714）の「瓦屋斎四郎」銘が存在してい
<table>
<thead>
<tr>
<th>瓦葺号</th>
<th>所在</th>
<th>西脇</th>
<th>紀年名</th>
<th>瓦屋・瓦師名等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>鬼面瓦5</td>
<td>多聞寺</td>
<td>1663</td>
<td>「寛文三年」</td>
<td>「大喜間村」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦14</td>
<td>善光寺</td>
<td>1753</td>
<td>「元禄十六年・永禄四月吉日」</td>
<td>「藤原正承」,「和田住谷村瓦屋住治郎作」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦6</td>
<td>多聞寺</td>
<td>1709</td>
<td>「寛永六年・正月吉日」</td>
<td>「多村二ノ谷や八兵衛町内子 桃花八百穂団内等」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦18</td>
<td>春光寺</td>
<td>1747</td>
<td>「延宝四年・卯月日」</td>
<td>「佐々木次」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦3</td>
<td>多聞寺</td>
<td>1759</td>
<td>「嘉慶九年・卯月日」</td>
<td>「瓦工新村 村医等」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦2</td>
<td>阿部神社</td>
<td>1768</td>
<td>「弘仁十五年」</td>
<td>「八百穂団内氏作」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦15/16</td>
<td>善光寺</td>
<td>1762</td>
<td>「元禄十二年八月日」</td>
<td>「大谷 sinister」,「大谷 sinister」</td>
</tr>
<tr>
<td>平瓦</td>
<td>興福寺</td>
<td>1762</td>
<td>「元禄十六年十二月」</td>
<td>「瓦工新村 村医等」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦8</td>
<td>安楽寺</td>
<td>1779</td>
<td>「己巳年正月・己巳年三月吉日」</td>
<td>「新村瓦工 村医等」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦1</td>
<td>安楽寺</td>
<td>1780</td>
<td>「寛永九年・庚子三月日」</td>
<td>「新村瓦工 村医等」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦10</td>
<td>安楽寺</td>
<td>1839</td>
<td>「大保十一年・正月吉日」</td>
<td>「田原本・うね町 立富吉 仕人」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦12</td>
<td>安楽寺</td>
<td>1845</td>
<td>「弘化元年十一月吉日」</td>
<td>「田原本・うね町 立富吉 仕人」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦3</td>
<td>安楽寺</td>
<td>1845</td>
<td>「弘化三年十一月吉日」</td>
<td>「田原本・うね町 立富吉 仕人」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦4</td>
<td>津島神社</td>
<td>1848</td>
<td>「嘉永元年・十一月吉日」</td>
<td>「三輪平（町）瓦屋善四郎 内宮吉才工」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦7</td>
<td>津島神社</td>
<td>1848</td>
<td>「嘉永元年・十一月吉日」</td>
<td>「三谷（町）瓦屋善四郎 内宮吉才工」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦5</td>
<td>津島神社</td>
<td>1848</td>
<td>「嘉永元年・十一月吉日」</td>
<td>「三谷（町）瓦屋善四郎 内宮吉才工」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦10</td>
<td>津島神社</td>
<td>1851</td>
<td>「嘉永四年正月吉日」</td>
<td>「田原本・うね町 立富吉 仕人」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦11</td>
<td>中谷家</td>
<td>1851</td>
<td>「嘉永四年正月吉日」</td>
<td>「田原本・うね町 立富吉 仕人」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦11</td>
<td>中谷家</td>
<td>1851</td>
<td>「嘉永四年正月吉日」</td>
<td>「田原本・うね町 立富吉 仕人」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦3</td>
<td>津島神社</td>
<td>1866</td>
<td>「慶応二年年」</td>
<td>「南都細工人大川町「村外田新七寄進」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦4</td>
<td>多聞寺</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦7</td>
<td>多聞寺</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦2</td>
<td>津島神社</td>
<td></td>
<td></td>
<td>「瓦工平（筒目押作）」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦6</td>
<td>津島神社</td>
<td></td>
<td></td>
<td>「田原本・うね町 立富吉 仕人」</td>
</tr>
<tr>
<td>楢谷瓦8</td>
<td>津島神社</td>
<td></td>
<td></td>
<td>「瓦作」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦13</td>
<td>長楽神社</td>
<td></td>
<td></td>
<td>「今里村 瓦師平七」</td>
</tr>
<tr>
<td>鬼面瓦23</td>
<td>大念寺</td>
<td></td>
<td></td>
<td>「うち月日・大安寺村」</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第2表 「傾内」銘をもつ瓦製仏像・露盤等（奈良文化財同好会1987年に作成）

<table>
<thead>
<tr>
<th>製品名</th>
<th>所在地</th>
<th>銘文</th>
<th>西暦</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>瓦製仏像</td>
<td>石橋家</td>
<td>僧都郡町谷原須</td>
<td>宝暦十四年 丙申月 七百同町傾内文右門</td>
</tr>
<tr>
<td>瓦製仏像</td>
<td>日桝神社</td>
<td>大和郡山市中央</td>
<td>八百十四文作 明和四五年</td>
</tr>
<tr>
<td>瓦製仏像</td>
<td>談作神社</td>
<td>僧都郡町谷原須</td>
<td>八百十四文作 明和五年</td>
</tr>
<tr>
<td>瓦製仏像</td>
<td>大和高田市高ノ出町</td>
<td>明和五年 式下四百八文 曲内作</td>
<td>1768</td>
</tr>
<tr>
<td>瓦製仏像</td>
<td>白壁神社</td>
<td>大和郡山市百舌町</td>
<td>八百十四文作 明和八年</td>
</tr>
</tbody>
</table>

帯。このことから、「瓦屋善四郎」は製造者であり1341年頃数代にわたって田原塩三輪町に瓦屋が存在し、寺内町を構成する。同一の地名や落款、周辺の製品ィ転じていたことがわかる。

第3表 「新里村」・「今里」銘をもつ瓦製仏像（奈良文化財同好会1987年に作成）

<table>
<thead>
<tr>
<th>製品名</th>
<th>所在地</th>
<th>銘文</th>
<th>西暦</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>瓦製仏像</td>
<td>木作神社</td>
<td>大田市上ノ町</td>
<td>大保二年六月吉日 今里里瓦 高尾瓦 山崎五郎</td>
</tr>
<tr>
<td>瓦製仏像</td>
<td>夜都伎神社</td>
<td>大田市上ノ町</td>
<td>天文四五年三月吉日 十市郡新里村 人形屋治作</td>
</tr>
<tr>
<td>土製仏像</td>
<td>御来神社</td>
<td>平野町落原</td>
<td>安政五年十二月吉日 十市郡新里村 落原口造</td>
</tr>
</tbody>
</table>

さて、「新里村」・「田原塩三輪町」・「八百」・「今里村」に所在したこれら工房の瓦屋が、寺内町に分布していることは注目される。おそらく、薪や粘土の原料から製品の流通に寺内町の水路が大きな役割を果たしていたのであろう。また、小松氏の教示によれば、「水路を利用した瓦材を屋根に選ばせるほか、瓦の製作には洗縁焼きするために水が必要とされ、河川に近在して焼成窯が築造された可能性がある」という。これまで田原塩本町内では、江戸時代の瓦屋を発掘した例はないが、窯の模様や技術を用いて今後の課題である。
このようにみてみると、近世田原本周辺の瓦生産が活発な経済活動になっていたことが推察でき、近世田原本が「大阪の窯」といわれていたことも説明できるのである。近世の構築構築瓦は、現在でも社寺や民家の屋根に葺かれている例が多く、これまで考古学的な研究対象となり難かった。ただし、こうした資料には紀年や瓦屋・瓦師の銘文をもつ例も少なくなく、その編年や生産・流通の問題を考える上で、多くの情報をもっている。本稿の報告した構築構築瓦は、田原本町内のごく一部の資料であるが、今後、町内や周辺地域において資料の蓄積が図られることによってより広範な地域における変遷と地域性、生産・流通の問題が提起されることを期待したい。

最後に、今回の報告は中西秀和氏の調査の成果がなければ為し得なかったものであり、改めてお礼申し上げます。また、中川義弘氏には資料の提供を讃んで顶きました。構築構築瓦の観察では故・小林章男氏、銘文の解読は谷山正道先生（大東大学教授）から多くの教示を得ました。また、作図に当たっては、奥谷知日朗氏のご協力があり、重ねてお礼申し上げます。
注
1）清水隆哉1999「多氣峠 第18次調査」《田原本町文化財調査年報 8 1998年度》
2）清水隆哉・岡谷知日昭2000「寺内町遺跡 第10次調査」《田原本町文化財調査年報17 2007年度》
3）清水隆哉・岡谷知日昭2009「法雲寺遺跡 第6次調査」《田原本町文化財調査年報17 2007年度》
4）清水隆哉・河村一浩・岡谷知日昭・前谷和之2009「法雲寺遺跡の総合的調査」《田原本町文化財調査年報17 2007年度》
5）河村一浩・藤田裕臣2008「家に近い里い 田原本の広しくと民間信仰」《近古・歴史学ミュージアム平成20年度
事業報告書》
6）小林幸男1985「生きている鬼瓦」《屋根保存》
7）小林幸男1991『鬼瓦』共同出版印刷株式会社
8）小林幸男1999「隠して戦いた鬼瓦」日本鬼瓦の会・石田俊一『鬼瓦文化江戸東京物語』
9）小林幸男2004『鬼瓦論文』日本鬼瓦の会
10）長谷川（田原本町誌編）には、「南部編」編者：末松隆「南部町史第44図」のとおり編集者が示されている。
11）近江文化財調査会編1967「絵の研究」《近江市史編の絵画》
12）田原本町史35号1996「南部町研究掛川の活動記録」《史の研究》1996年12月2日
13）同上
参考文献
田原本町史編さん会2006「田原本町史 参文編」
1. 本表は、本文で紹介した橙端器の観察表である。
2. 「法量」は「長」、「幅」、「厚①」、「厚②」についてはcmを、「重量」についてはkgを単位とする。
3. 「法量」の計測箇所は下図のとおりである。このうち鬼面瓦については、貼り付けた鬼面顔部が母屋台部をはみ出す例もあるが、母屋台部の最大長を「長」、「幅」とする。また「厚①」は、鬼面瓦における角・額・鼻での最大厚をさし、その部分を表記する。なお、隅蓋瓦については、獅子・鬼の最大高を「長」、最大幅を「幅」とする。
4. 「孔」は、「母屋台部」や「補立」、「間張」における孔の有無を示し、三日月形の穿孔については縦・横の長さを、円形孔については直径を示す。単位はcmである。

法量の計測箇所
<table>
<thead>
<tr>
<th>项目号</th>
<th>项目名称</th>
<th>所在地</th>
<th>形式</th>
<th>文化</th>
<th>面积</th>
<th>用途</th>
<th>黄色</th>
<th>资源</th>
<th>调整</th>
<th>植物</th>
<th>修补</th>
<th>颜色</th>
<th>假号</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>麦韦五</td>
<td>麦韦五</td>
<td>多神社</td>
<td>私有</td>
<td>玉</td>
<td>0.0</td>
<td>家</td>
<td>0</td>
<td>阿</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>麦韦四</td>
<td>麦韦四</td>
<td>麦韦四</td>
<td>私有</td>
<td>玉</td>
<td>0.0</td>
<td>家</td>
<td>0</td>
<td>阿</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>麦韦三</td>
<td>麦韦三</td>
<td>麦韦三</td>
<td>私有</td>
<td>玉</td>
<td>0.0</td>
<td>家</td>
<td>0</td>
<td>阿</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>麦韦二</td>
<td>麦韦二</td>
<td>麦韦二</td>
<td>私有</td>
<td>玉</td>
<td>0.0</td>
<td>家</td>
<td>0</td>
<td>阿</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>麦韦一</td>
<td>麦韦一</td>
<td>麦韦一</td>
<td>私有</td>
<td>玉</td>
<td>0.0</td>
<td>家</td>
<td>0</td>
<td>阿</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：此表为麦韦统计表格，各项目按照麦韦的不同进行分类，具体信息包括所在地位、形式、文化、面积、用途、黄色、资源、调整、植物、修补、颜色和假号。
<table>
<thead>
<tr>
<th>番号</th>
<th>新文</th>
<th>約文</th>
<th>推定</th>
<th>原文</th>
<th>招国</th>
<th>約文</th>
<th>番号</th>
<th>約文</th>
<th>推定</th>
<th>原文</th>
<th>招国</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>大同元年</td>
<td>1月1日</td>
<td>新文</td>
<td>8</td>
<td>大同元年</td>
<td>1月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>大同元年</td>
<td>2月1日</td>
<td>新文</td>
<td>9</td>
<td>大同元年</td>
<td>2月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>大同元年</td>
<td>3月1日</td>
<td>新文</td>
<td>10</td>
<td>大同元年</td>
<td>3月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>大同元年</td>
<td>4月1日</td>
<td>新文</td>
<td>11</td>
<td>大同元年</td>
<td>4月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>大同元年</td>
<td>5月1日</td>
<td>新文</td>
<td>12</td>
<td>大同元年</td>
<td>5月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>大同元年</td>
<td>6月1日</td>
<td>新文</td>
<td>13</td>
<td>大同元年</td>
<td>6月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>大同元年</td>
<td>7月1日</td>
<td>新文</td>
<td>14</td>
<td>大同元年</td>
<td>7月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>大同元年</td>
<td>8月1日</td>
<td>新文</td>
<td>15</td>
<td>大同元年</td>
<td>8月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>大同元年</td>
<td>9月1日</td>
<td>新文</td>
<td>16</td>
<td>大同元年</td>
<td>9月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>大同元年</td>
<td>10月1日</td>
<td>新文</td>
<td>17</td>
<td>大同元年</td>
<td>10月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>大同元年</td>
<td>11月1日</td>
<td>新文</td>
<td>18</td>
<td>大同元年</td>
<td>11月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>大同元年</td>
<td>12月1日</td>
<td>新文</td>
<td>19</td>
<td>大同元年</td>
<td>12月1日</td>
<td>約文</td>
<td>推定</td>
<td>原文</td>
<td>招国</td>
<td>番号</td>
</tr>
</tbody>
</table>